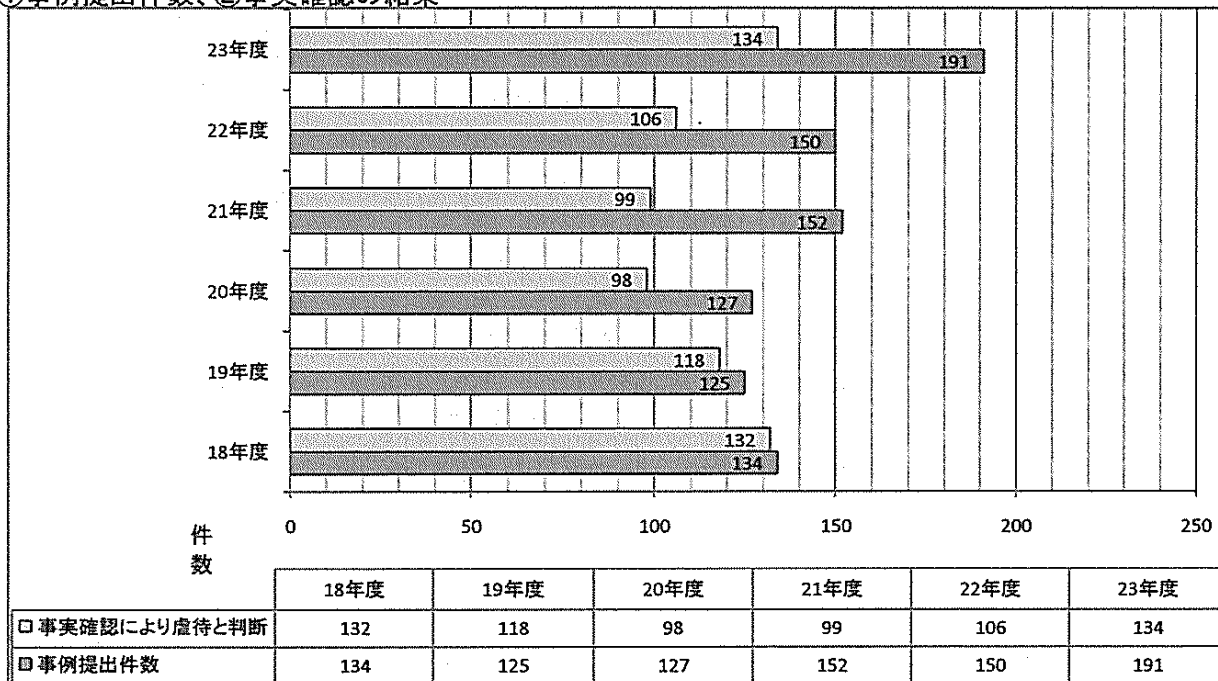


資料 1

H18～H23年度の 65歳以上の在宅の高齢者虐待に関する新潟市の状況(H24.3.31現在)

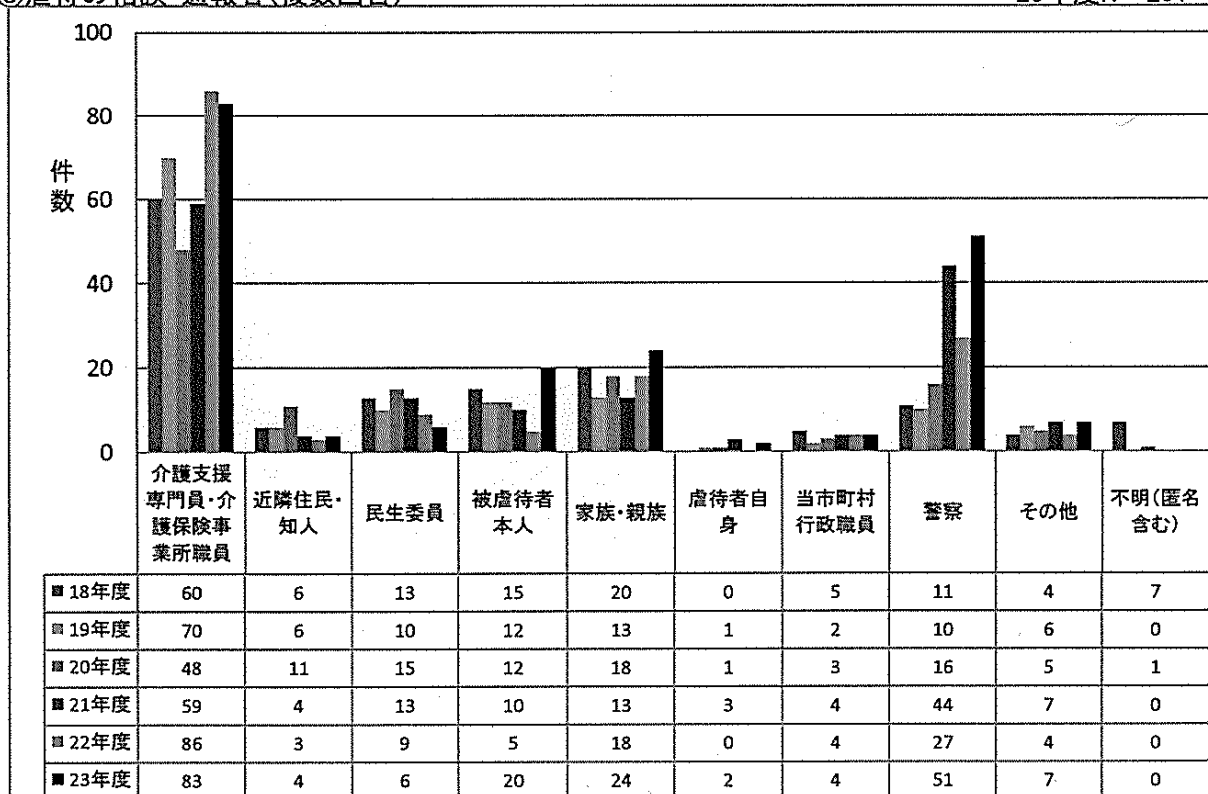
①事例提出件数、②事実確認の結果



・事例提出件数は前年度より41件増加した。事実確認の結果、虐待と判断された事例は134件である。虐待の未然防止という視点から関わる中で、今後調査を予定または検討中のものが6件。他53件は今後も虐待の恐れがある等の理由により予防的に関係者で連携して対応している事例である。

③虐待の相談・通報者(複数回答)

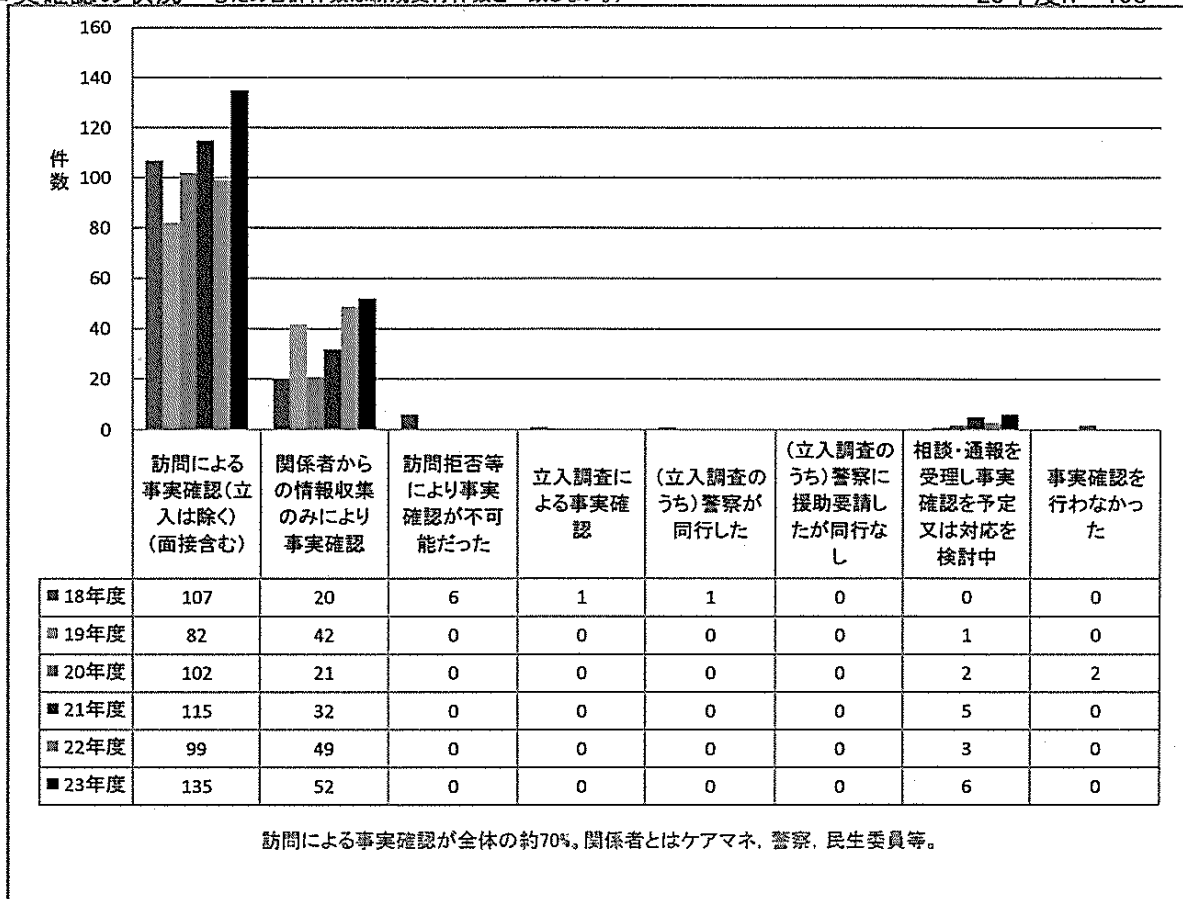
23年度n=201



ケアマネ等の介護関係者の相談数が変わらず4割近くを占めているが、23年度は警察からの相談が前年度比8.0%増の51件。その他・・・病院ソーシャルワーカー、開業医等だった。

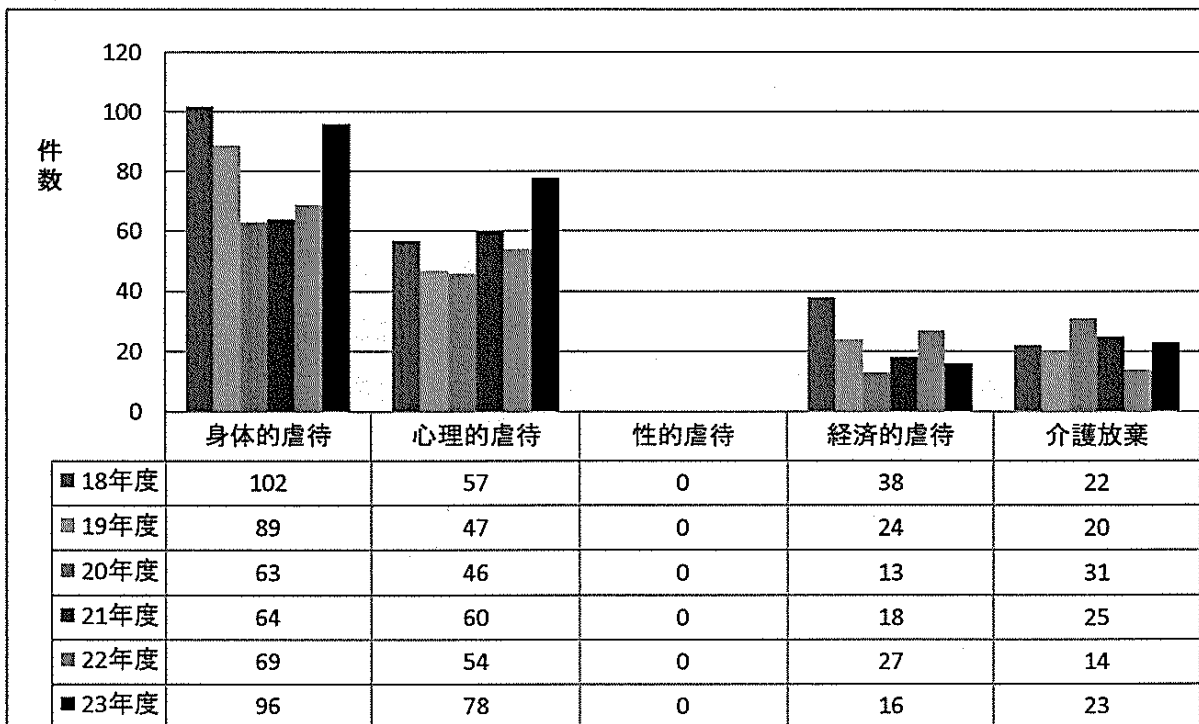
④事実確認の状況 (事実調査を行った事例のうち、次年度に入って事実調査を行ったものも含むため合計件数は新規受付件数と一致しない。)

23年度n=193



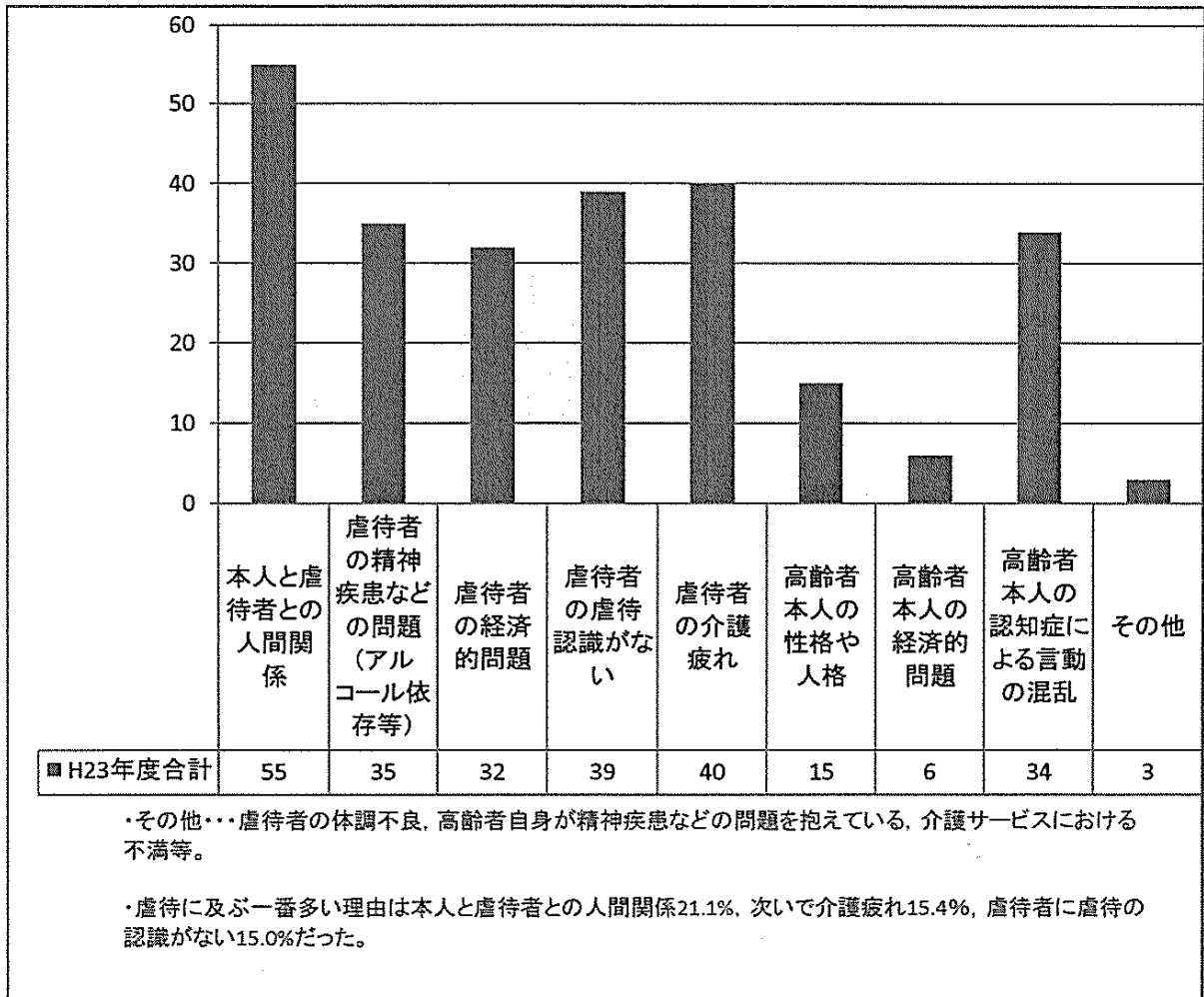
⑤虐待種類の内訳(複数回答)

23年度n=213



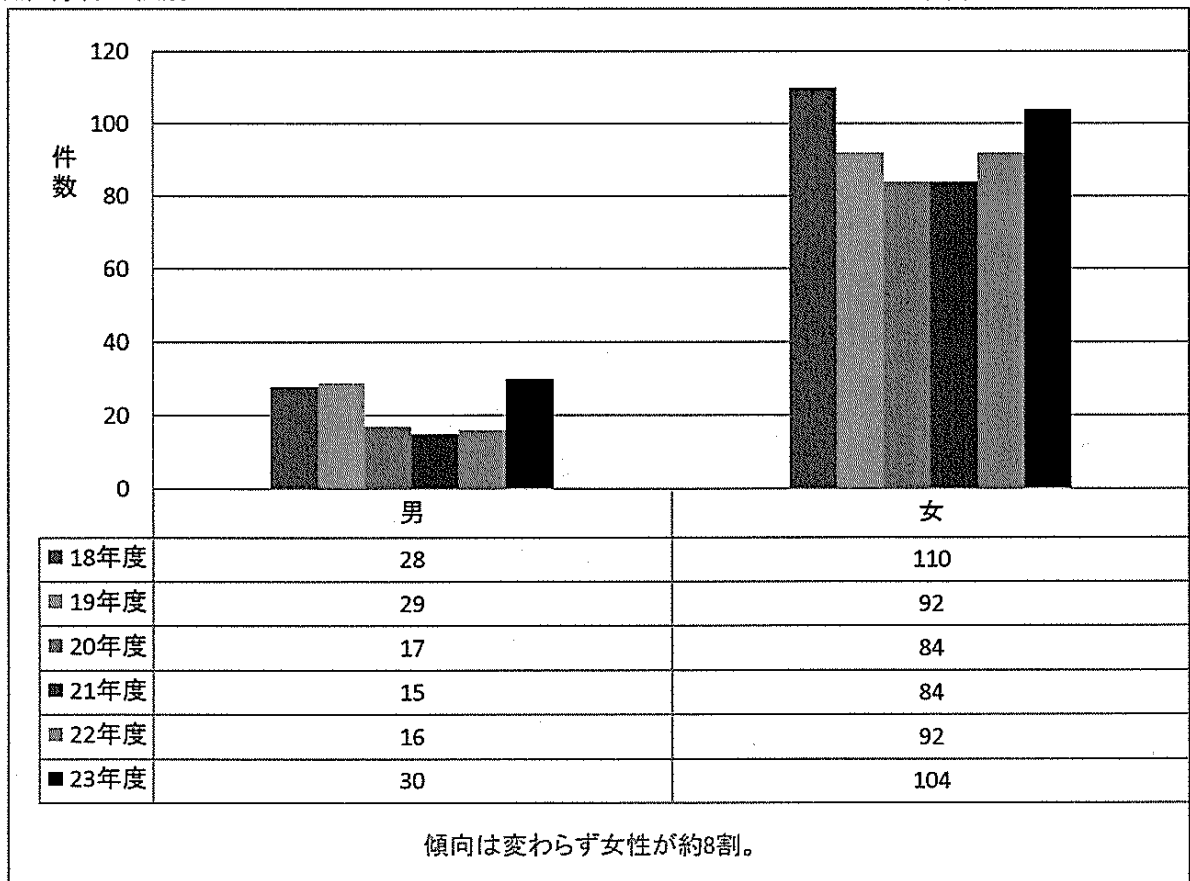
・全体としては多いものから身体、心理、介護放棄、経済、性の順番であった。
 ・身体的虐待は前年比3.0%増。心理虐待が前年比3.7%増。介護放棄は2.2%増。一方減少したのは経済虐待で前年比8.9%減であった。

⑥虐待の発生に影響を与えたとされる要因(重複回答) n=259



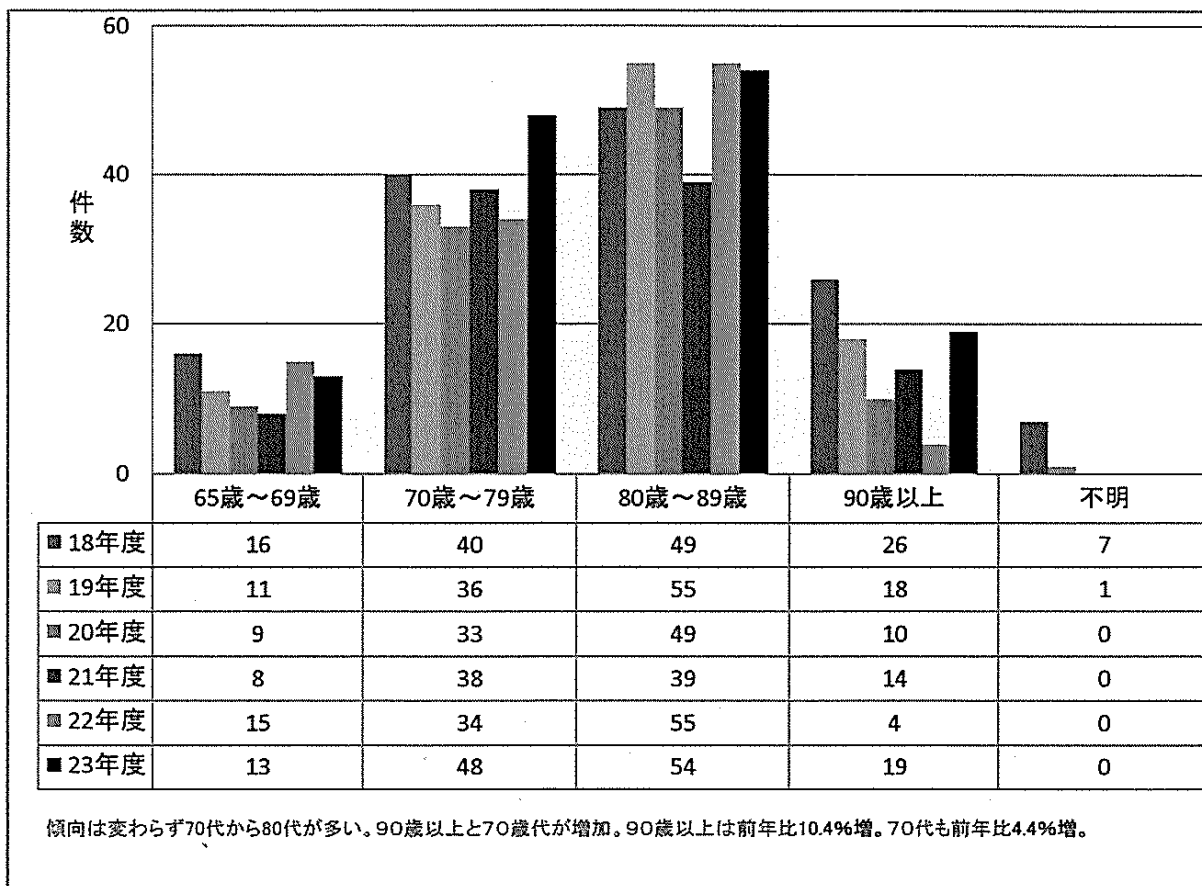
⑦被虐待者の性別

23年度n=134



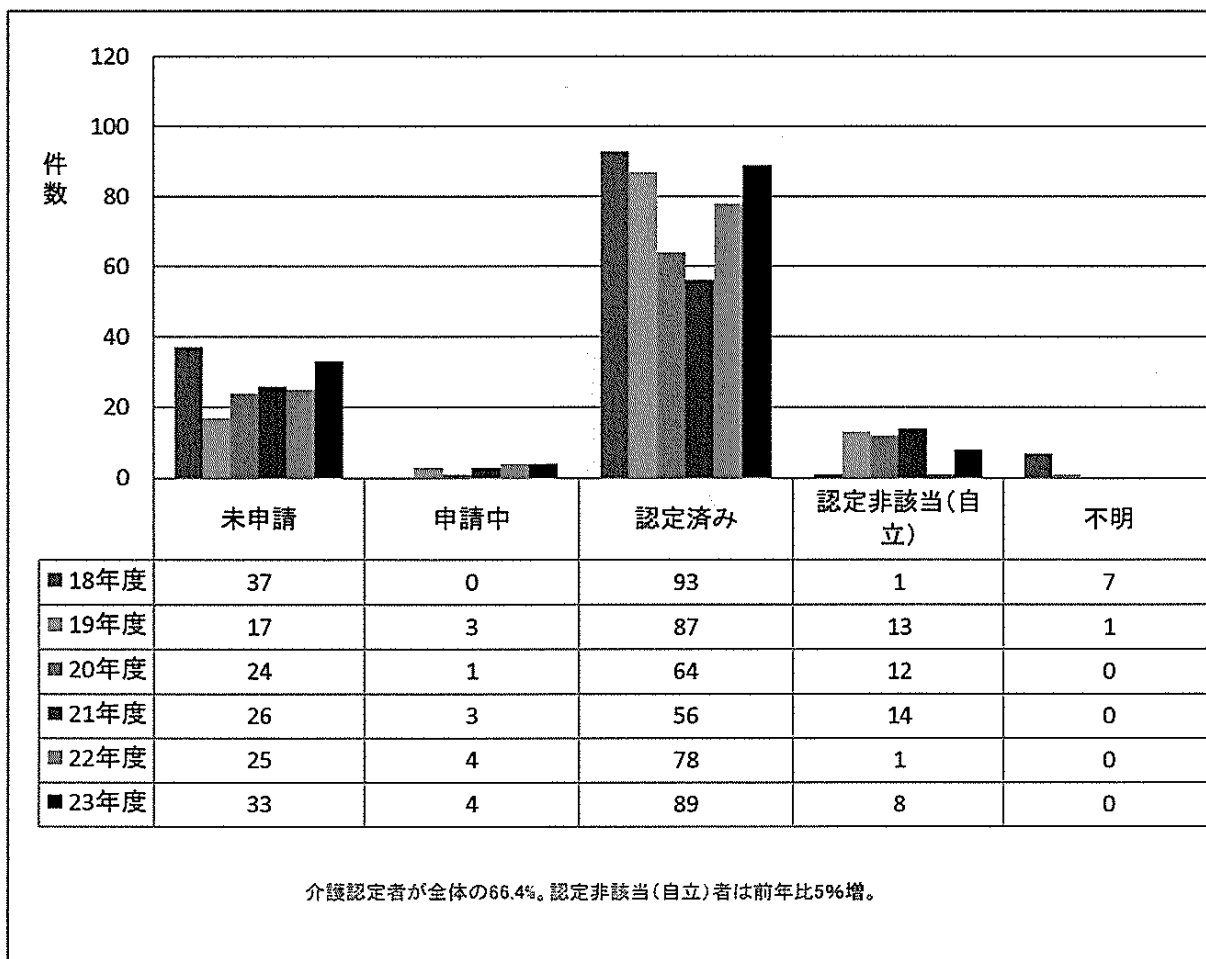
⑧被虐待者の年齢

23年度n=134



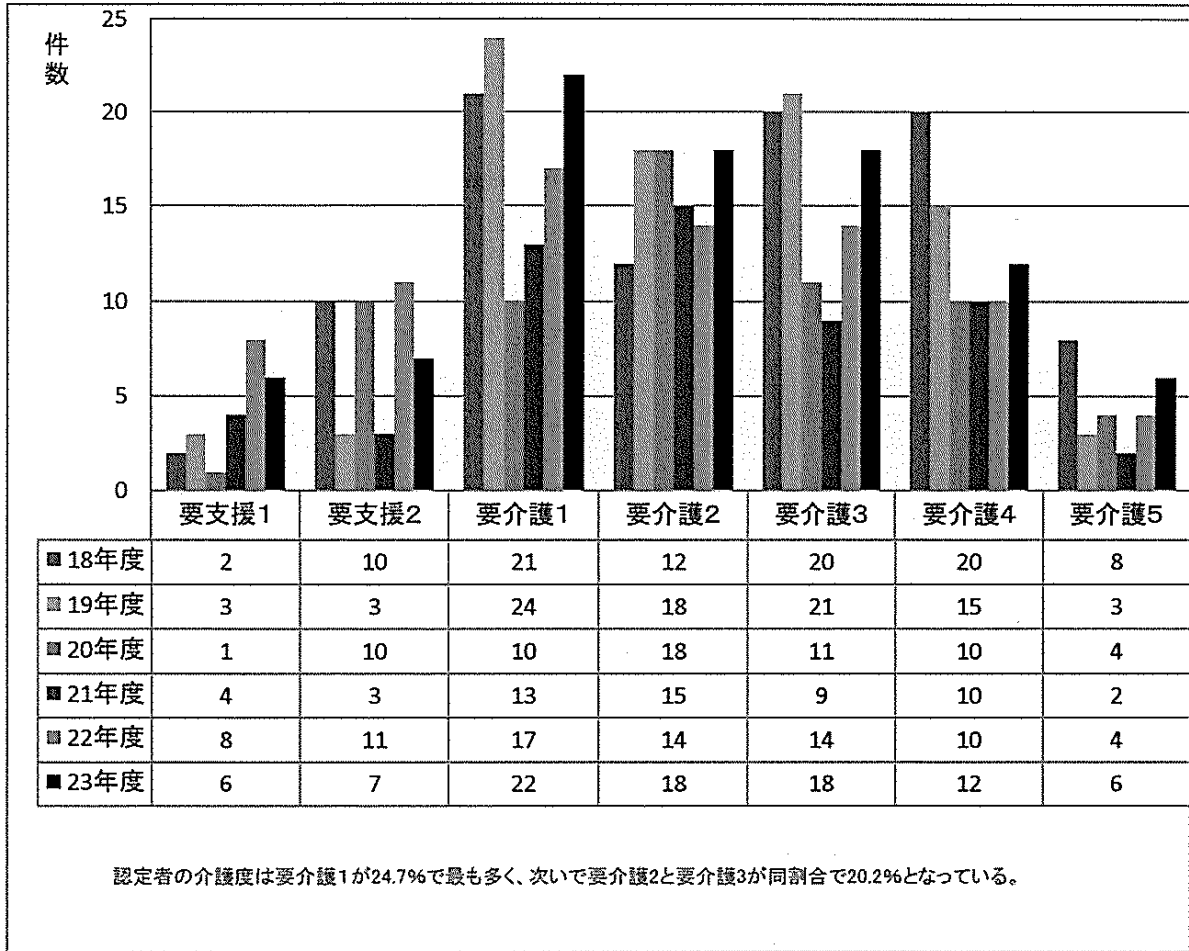
⑨被虐待者の介護認定の有無

23年度n=134



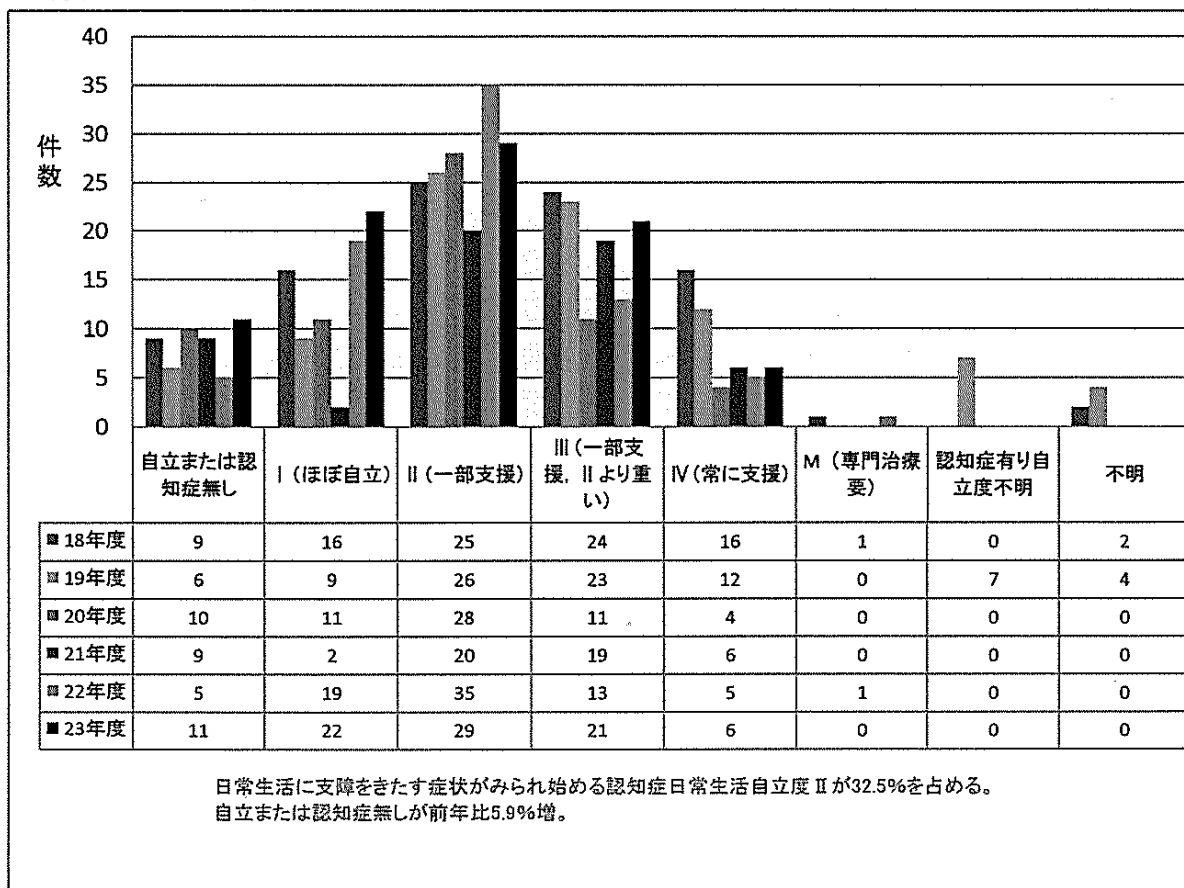
⑩被虐待者の要介護度

23年度n=89



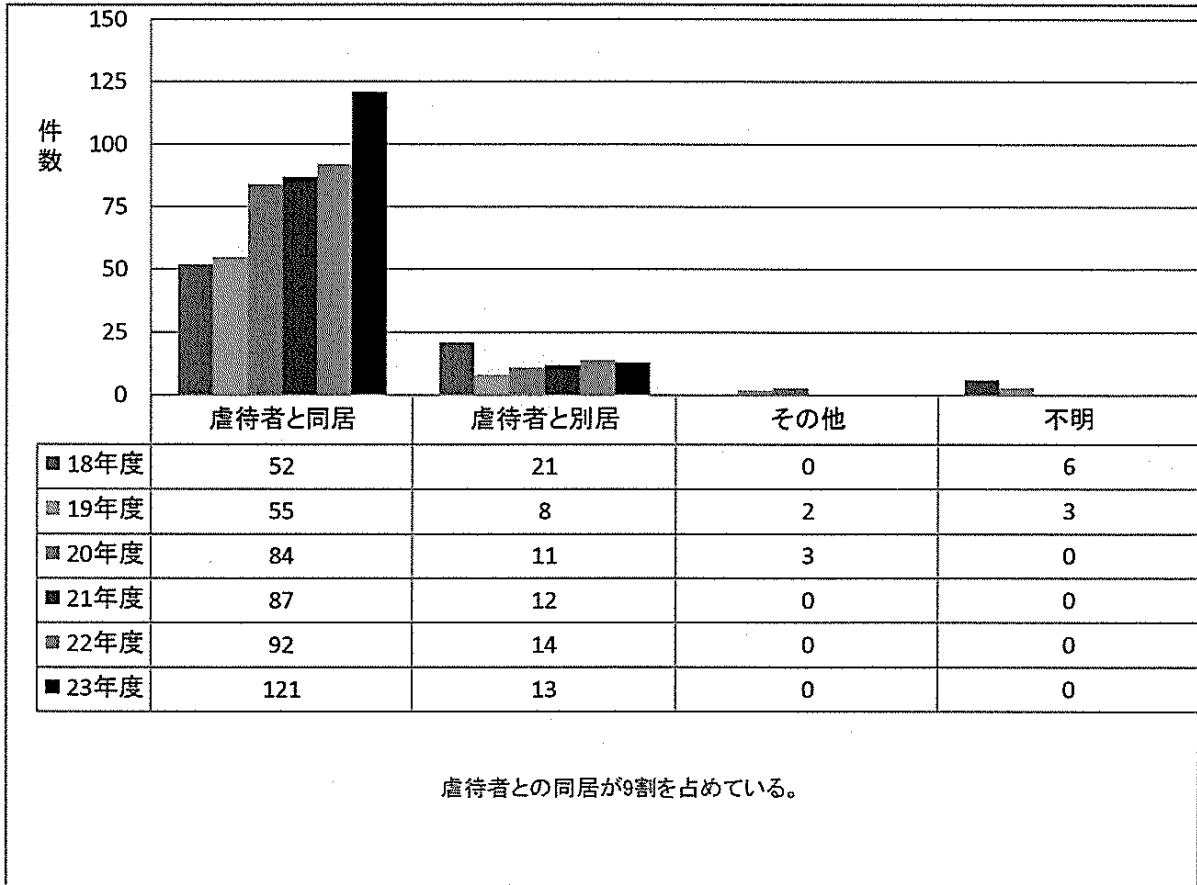
⑪被虐待者の認知症の有無

23年度n=89



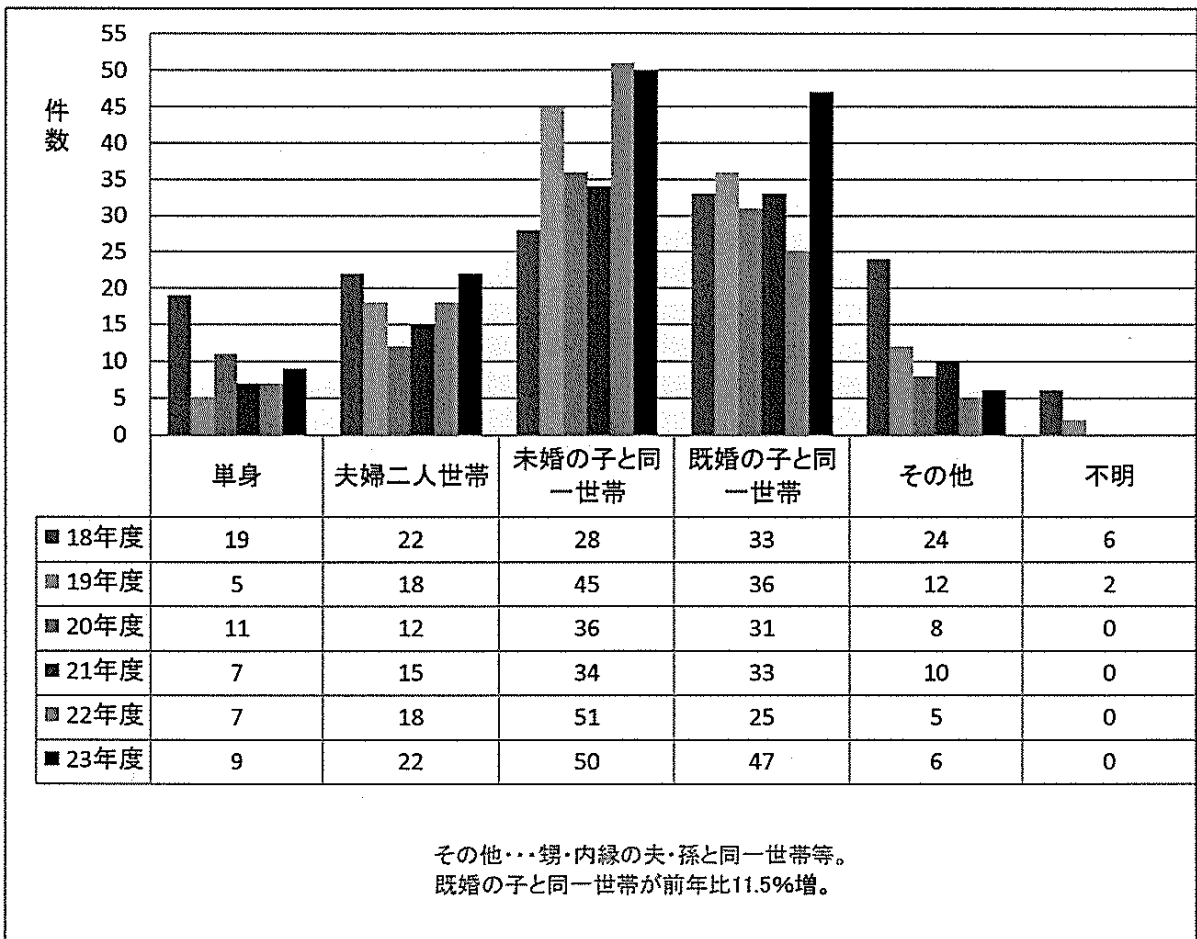
⑫虐待者との居住形態

23年度n=134



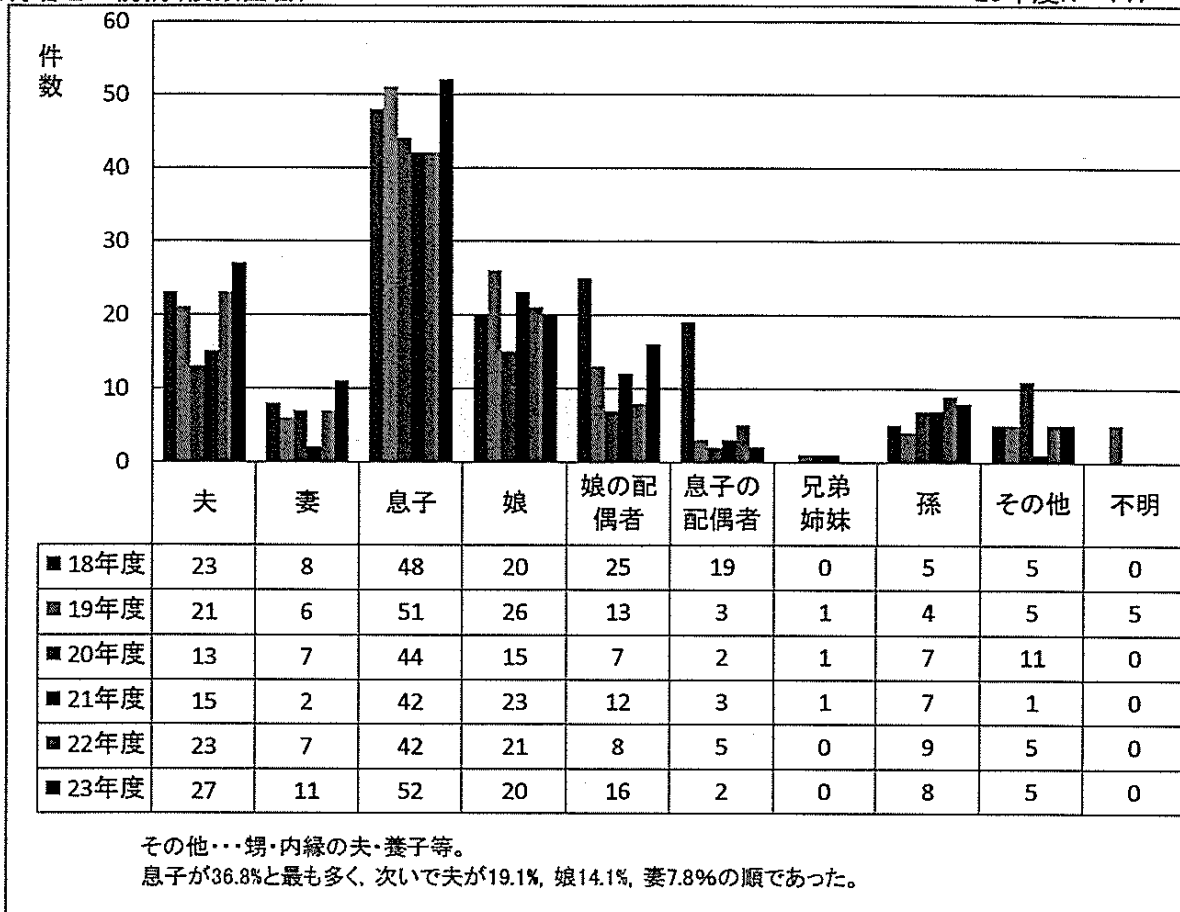
⑬世帯構成

23年度n=134



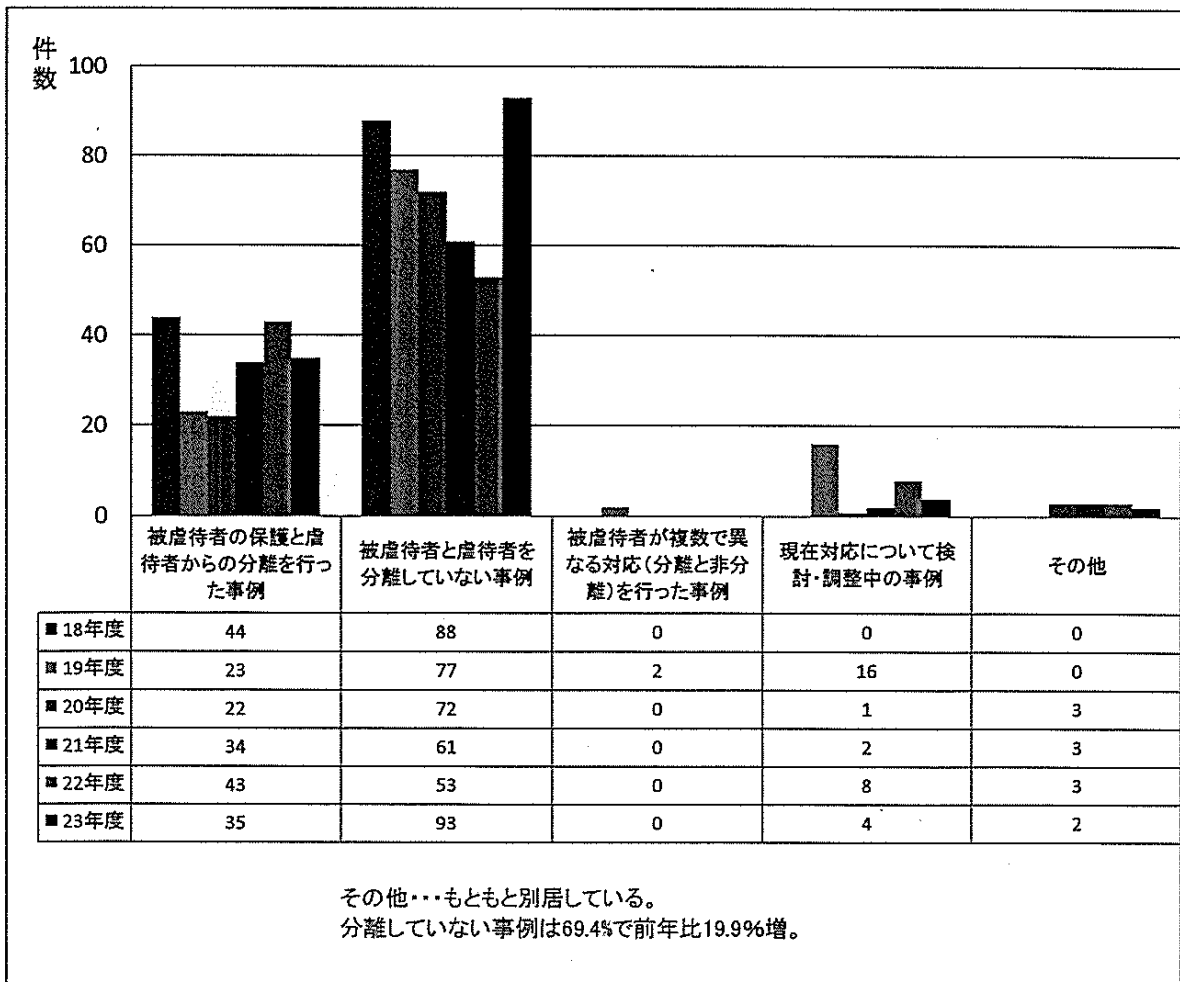
⑭虐待者との続柄(複数回答)

23年度n=141



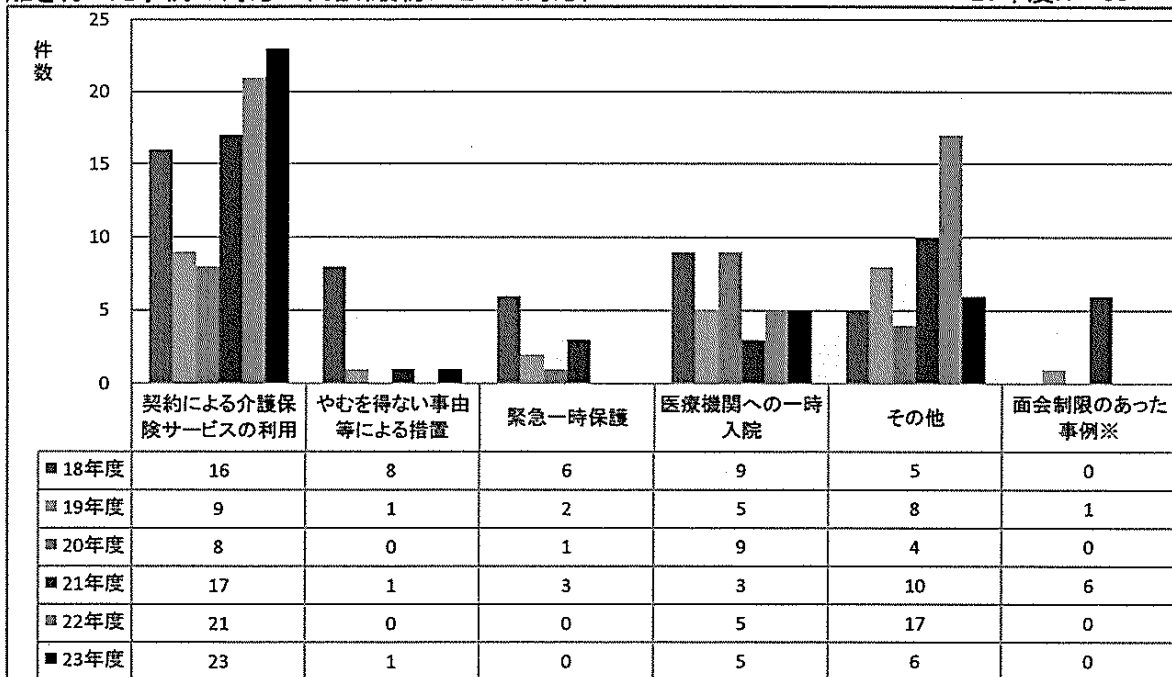
⑮分離の有無

23年度n=134



⑩分離を行った事例の対応の内訳(最初にとった対応)

23年度n=35



その他・・・アパート入居、ケアハウス入居等。

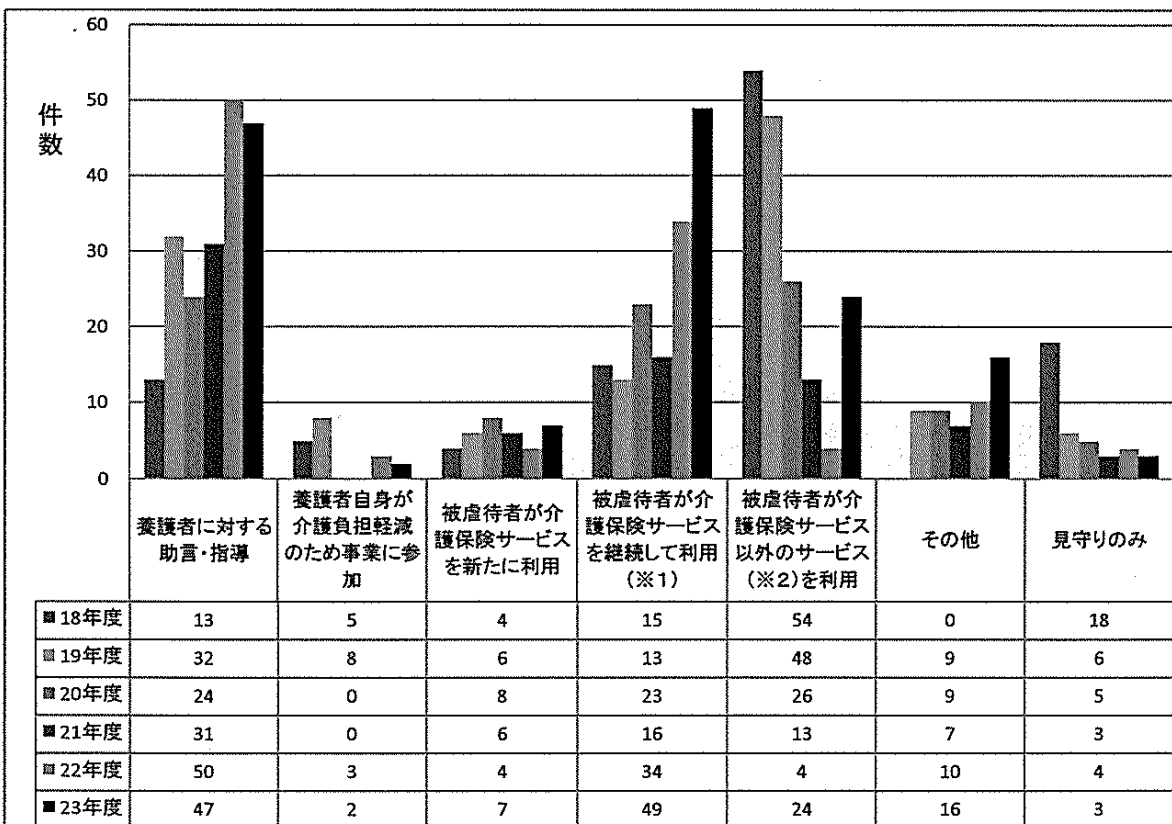
契約による介護保険サービスの利用が6割以上を占めている。

やむを得ない事由等による措置1件。医療機関への一時入院5件。

※面会制限のあった事例は平成20年度以前はやむを得ない事由による措置での面会制限のあった事例の件数。平成21年度以降はやむを得ない事由による措置以外の対応で虐待者に居住地を教えない事例の件数を含む。

⑪分離していない事例の対応の内訳(見守りのみ以外複数回答有)

23年度n=148



その他・・・主治医との連携、養護者の受診、被虐待者への各種制度の紹介や目的に合った相談窓口の紹介等。

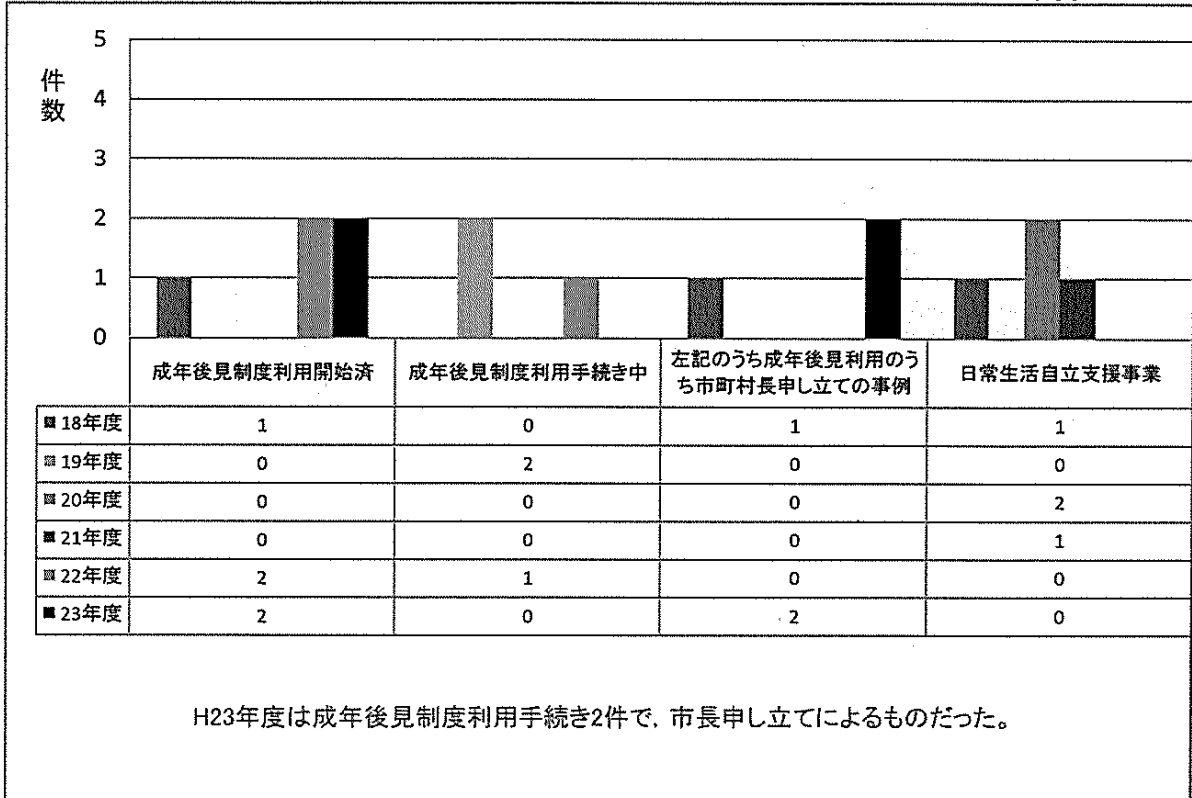
介護保険サービスの継続が最も多く33.1%、次いで養護者に対する助言指導が31.7%。

介護保険サービス以外のサービス利用は16.2%で前年度比12.6%増。

※1 被虐待者に対するケアプランの見直し。

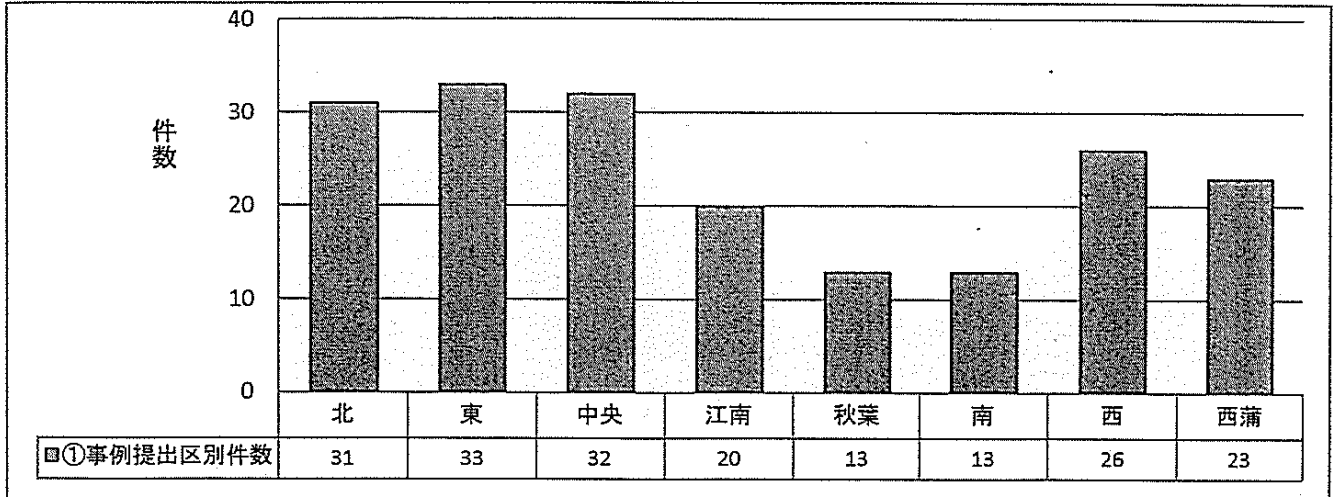
※2 介護保険サービス以外のサービスとは包括、民生委員等の見守り、定期訪問等。

⑩権利擁護に関する対応 (前年度以前の虐待判断事例のうちH23年度に入って対応を行ったものも含む) 23年度n=2



平成23年度虐待相談受付件数について
 在宅の高齢者虐待に関する新潟市の状況(H24.3.31現在。対象はH23.4月～H24.3月受付分)

①事例提出件数 n=191

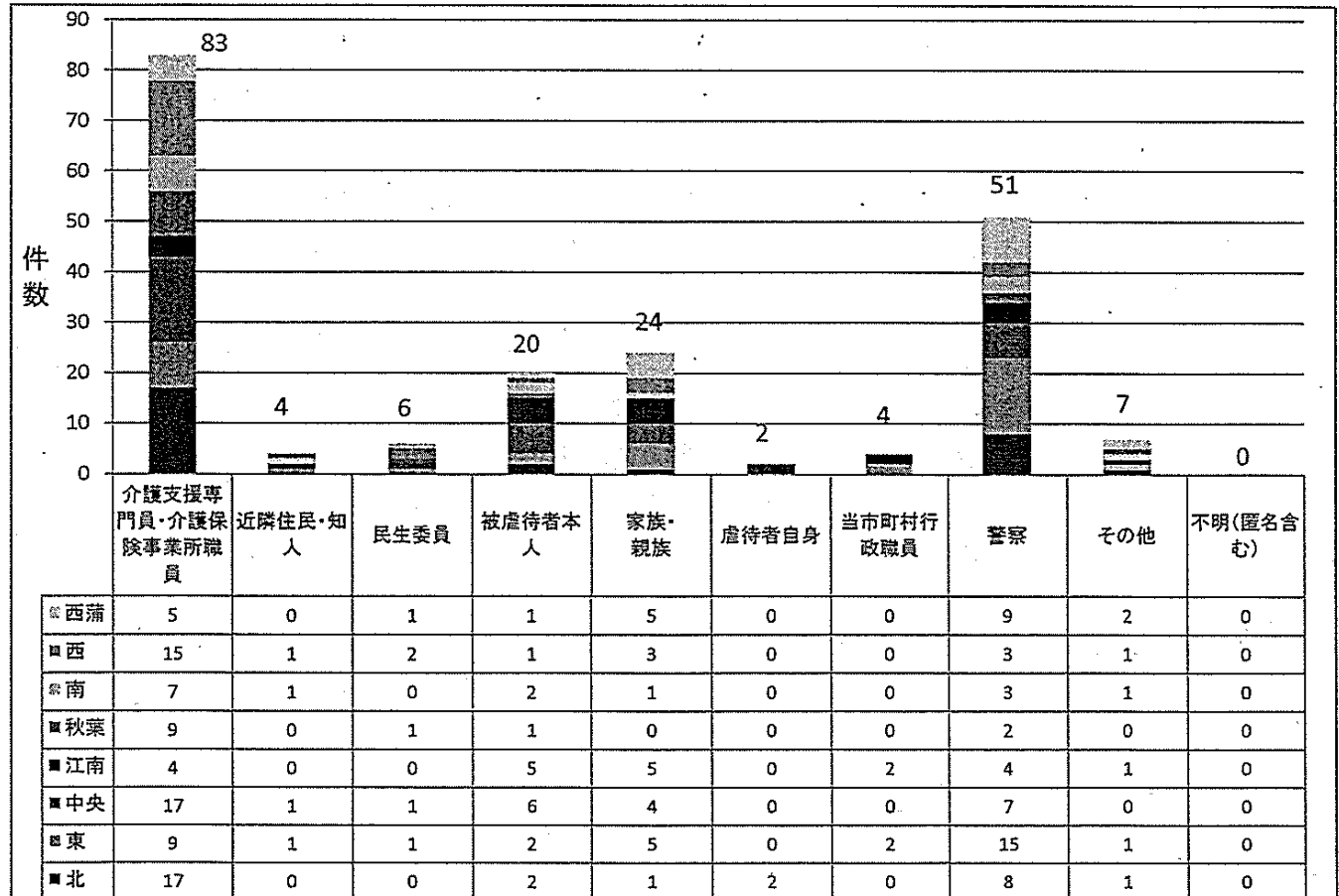


②事実確認の結果

事実確認	件数
虐待を受けた又は受けたと認められたと判断した事例	134
調査を予定又は検討中の事例	6
虐待を受けたとは思われなかったが、虐待の恐れがある等の理由により、予防的に何らかの具体的な対応を行った事例	53
計	193

※事実調査を行った事例のうち、次年度に入って事実調査を行ったものも含むため合計件数は新規受付数と一致しない。

③虐待の相談・通報者(複数回答) n=201

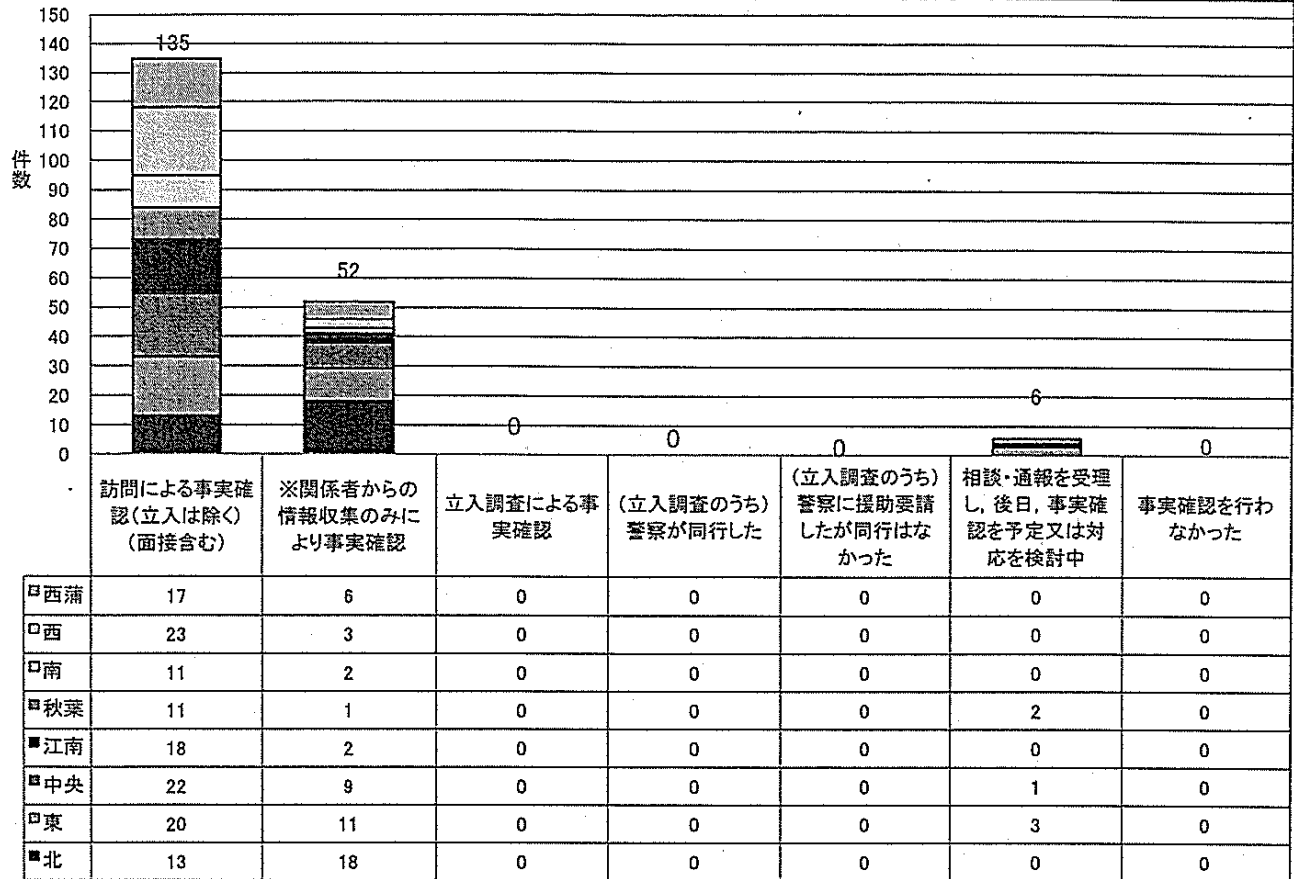


・介護支援専門員、介護職が41.0%と最も多く、次いで警察からの通報も25.3%と多くなっている。その他については病院ケースワーカー、開業医等。

④事実確認の状況

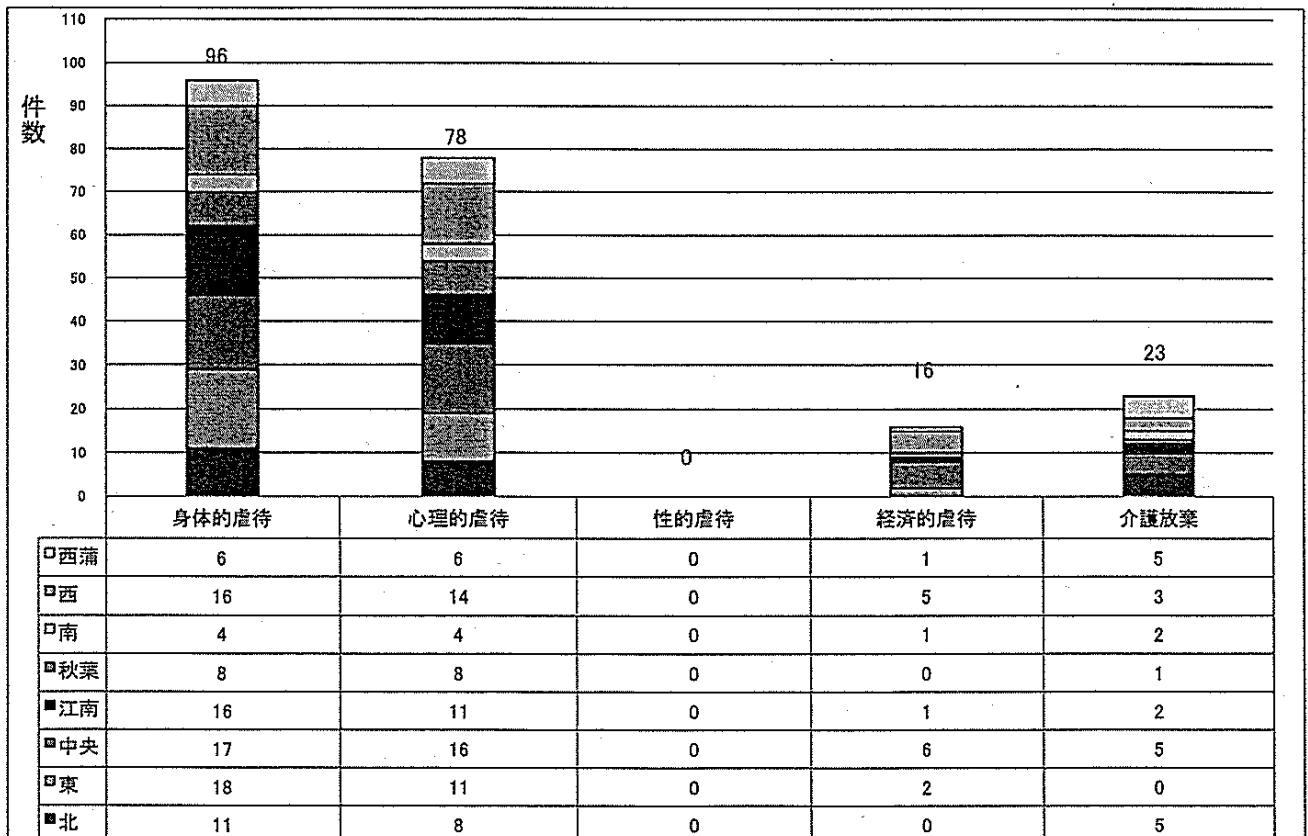
(事実調査を行った事例のうち、次年度に入って事実調査を行ったものも含むため合計件数は新規受付件数と一致しない)

n=193



訪問による事実確認が全体の70%。
※関係者とはケアマネ、警察、民生委員等。

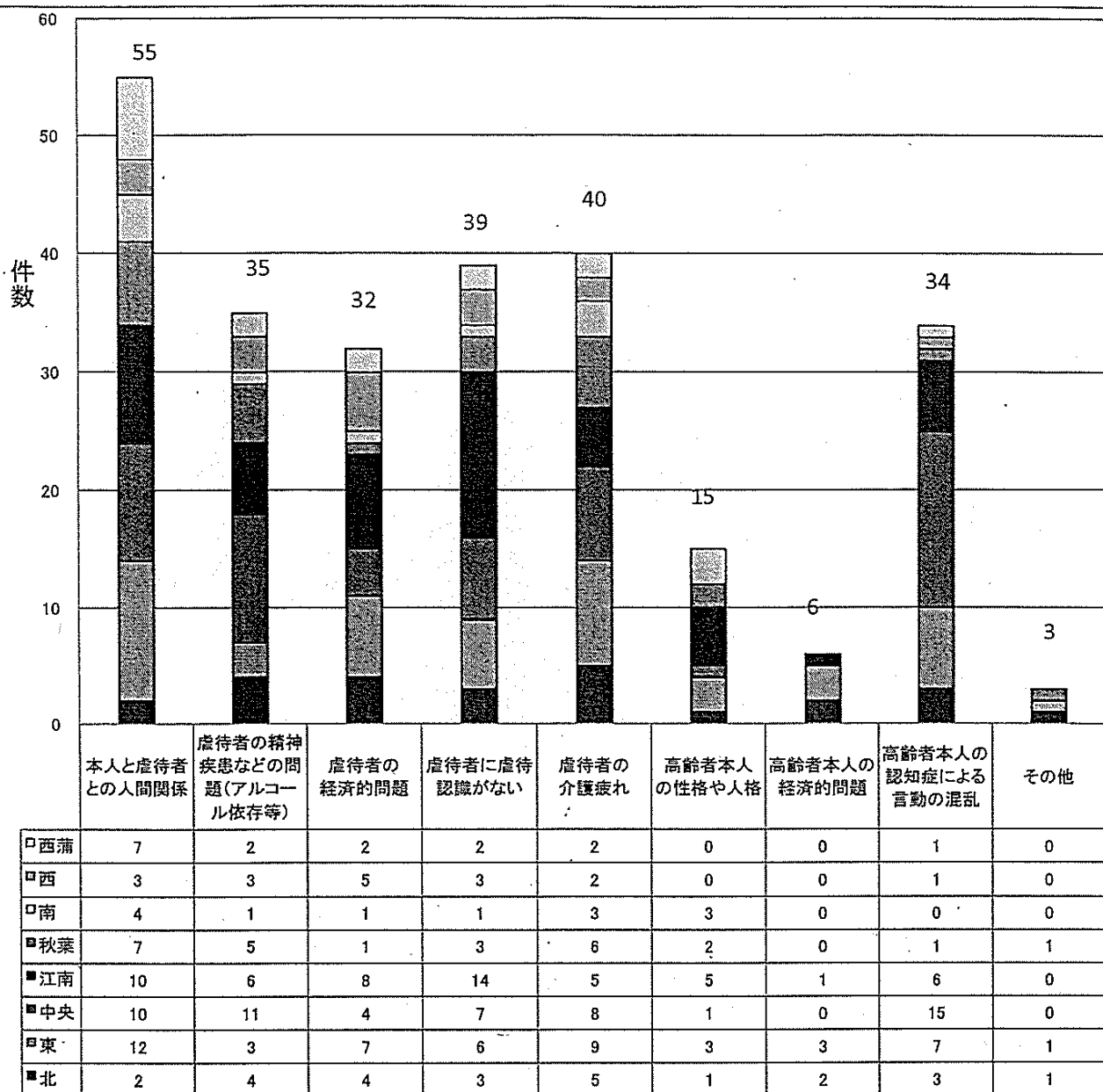
⑤虐待種類の内訳(複数回答) n=213



身体的虐待が45.0%と最も多く、次いで心理的虐待が36.6%

⑥虐待の発生に影響を与えたとされる要因(重複回答)

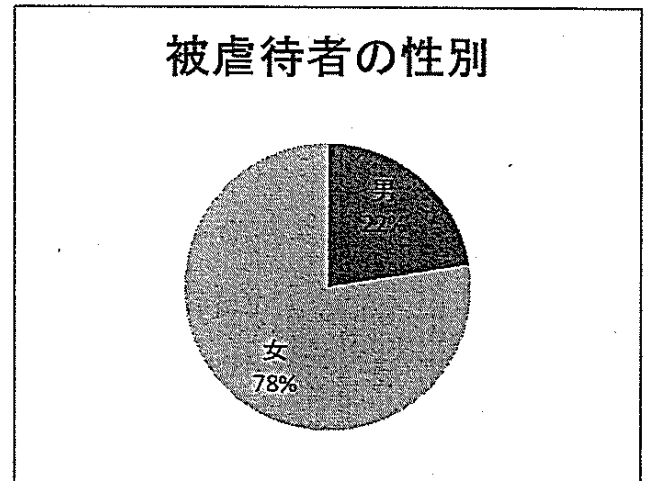
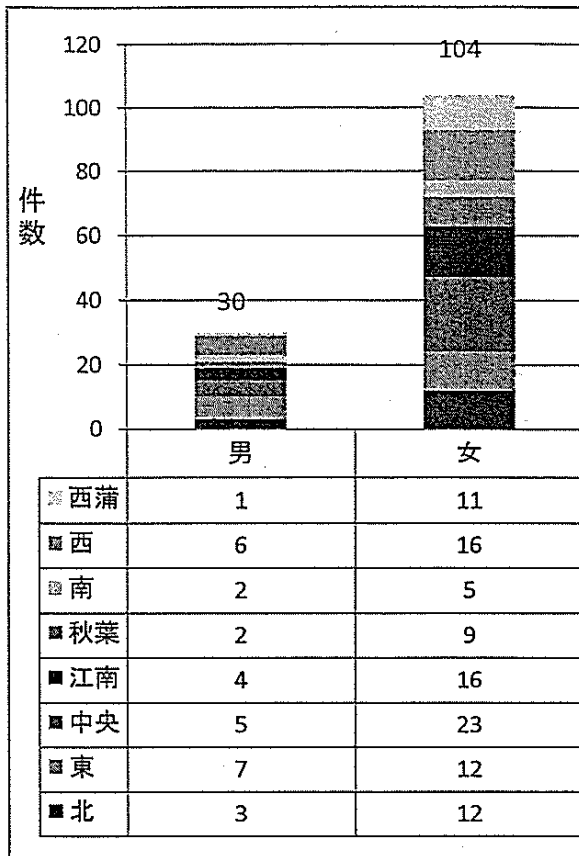
n=259



・その他・・・虐待者の体調不良, 高齢者自身が精神疾患などの問題を抱えている, 介護サービス利用時における不満等。

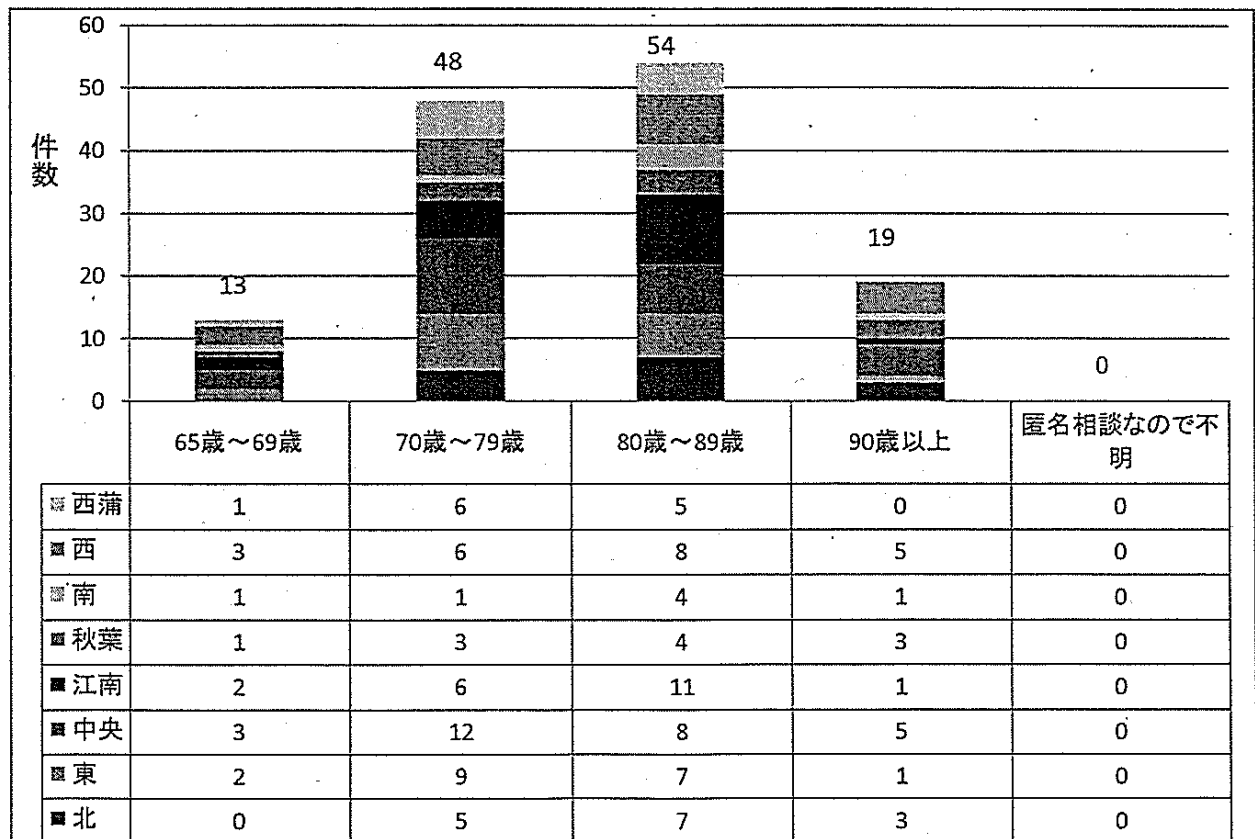
・虐待に及ぶ一番多い理由は本人と虐待者との人間関係21.2%, 次いで介護疲れ15.4%, 虐待者に虐待の認識がない15.0%だった。

⑦被虐待者の性別 n=134



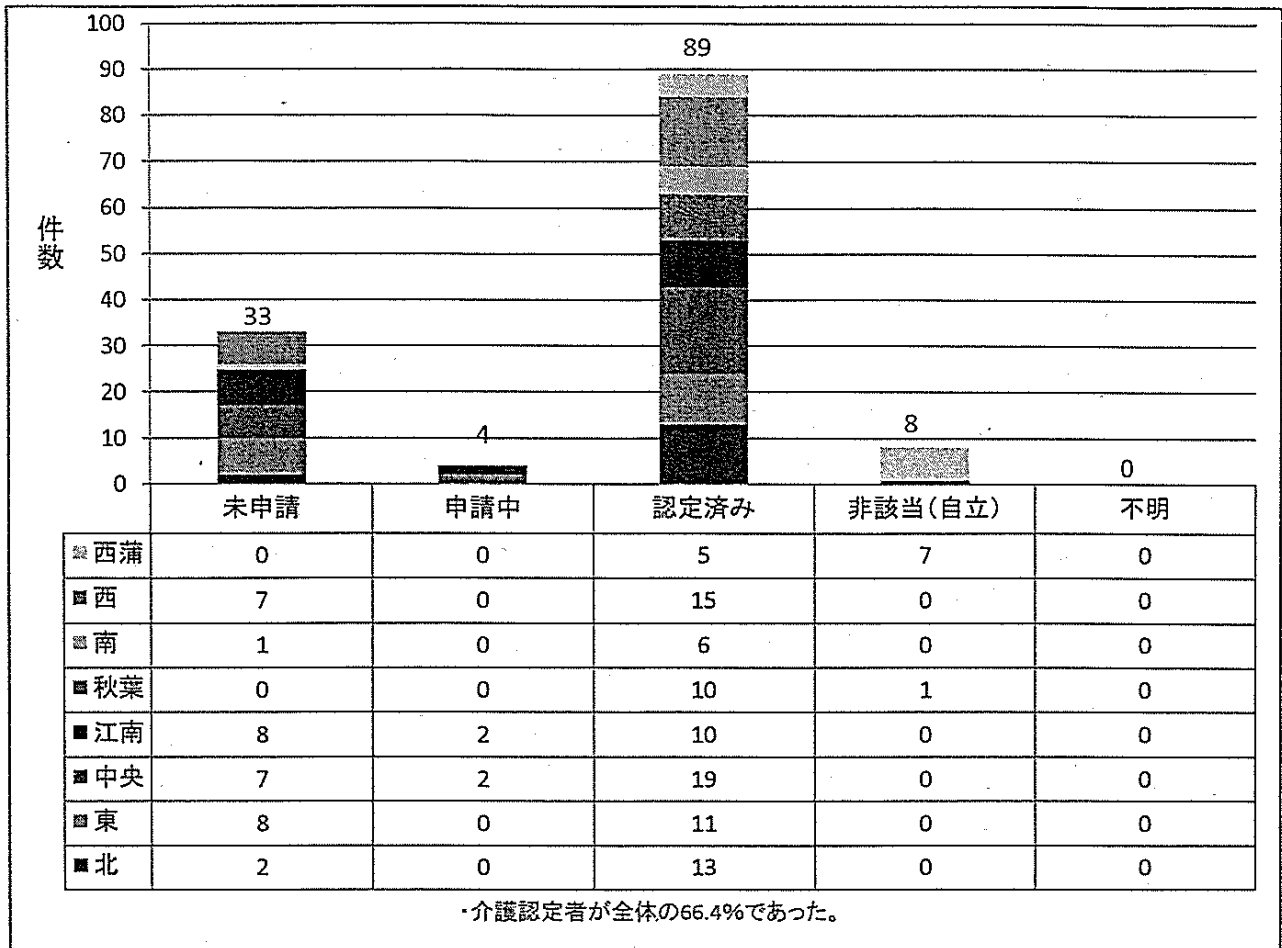
※約8割が女性である。

⑧被虐待者の年齢 n=134

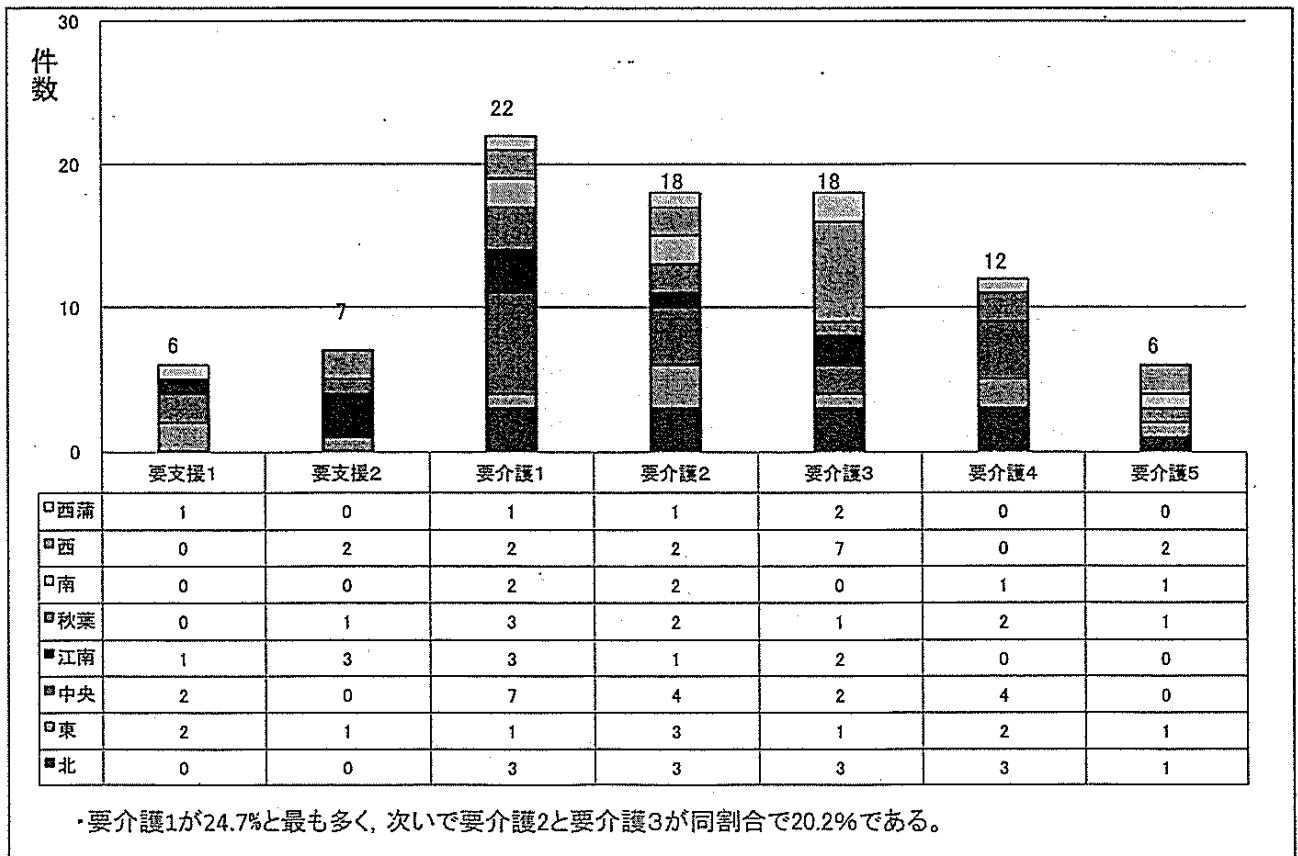


・80代が最も多く40.2%。70代～80代で全体の76.1%をしめる。

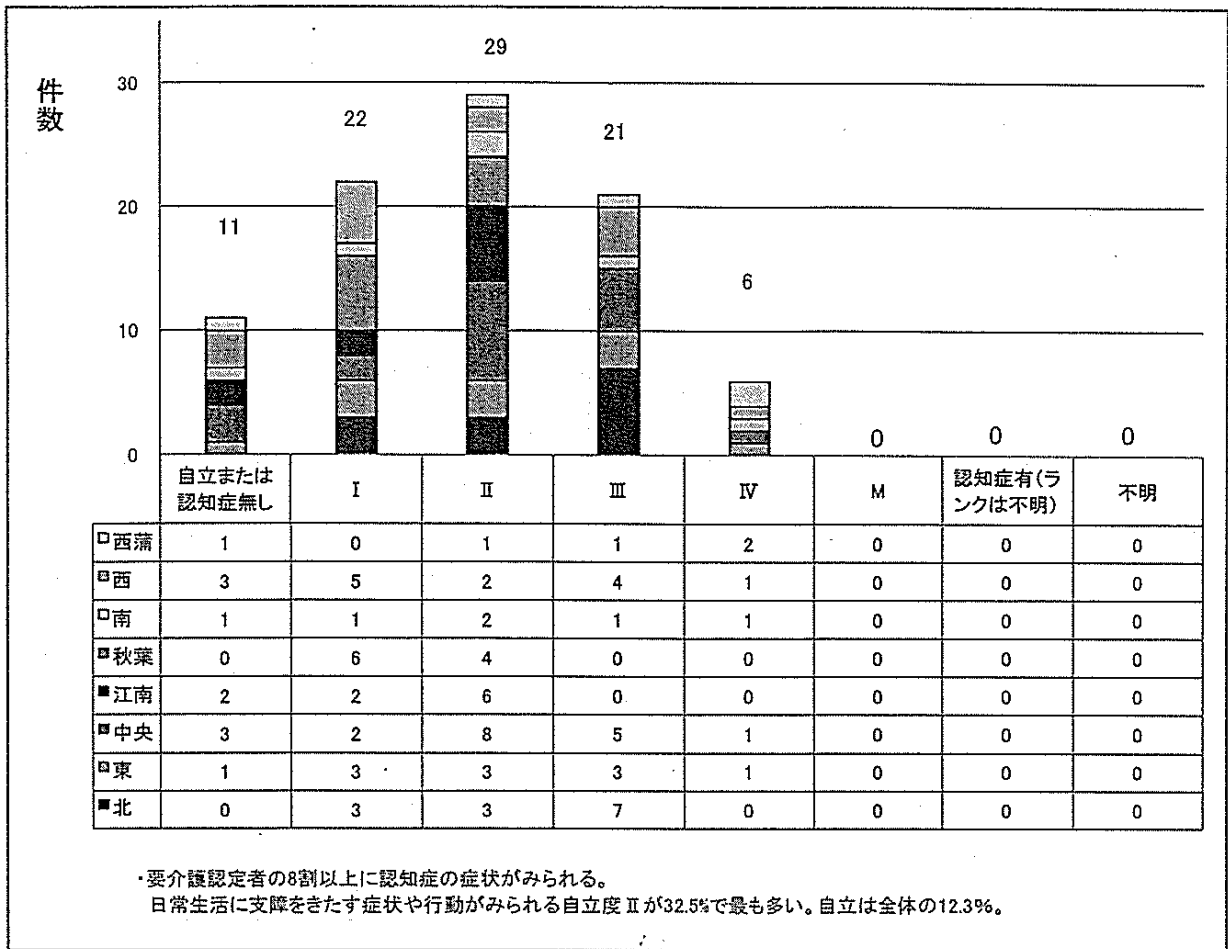
⑨被虐待者の介護認定の有無 n=134



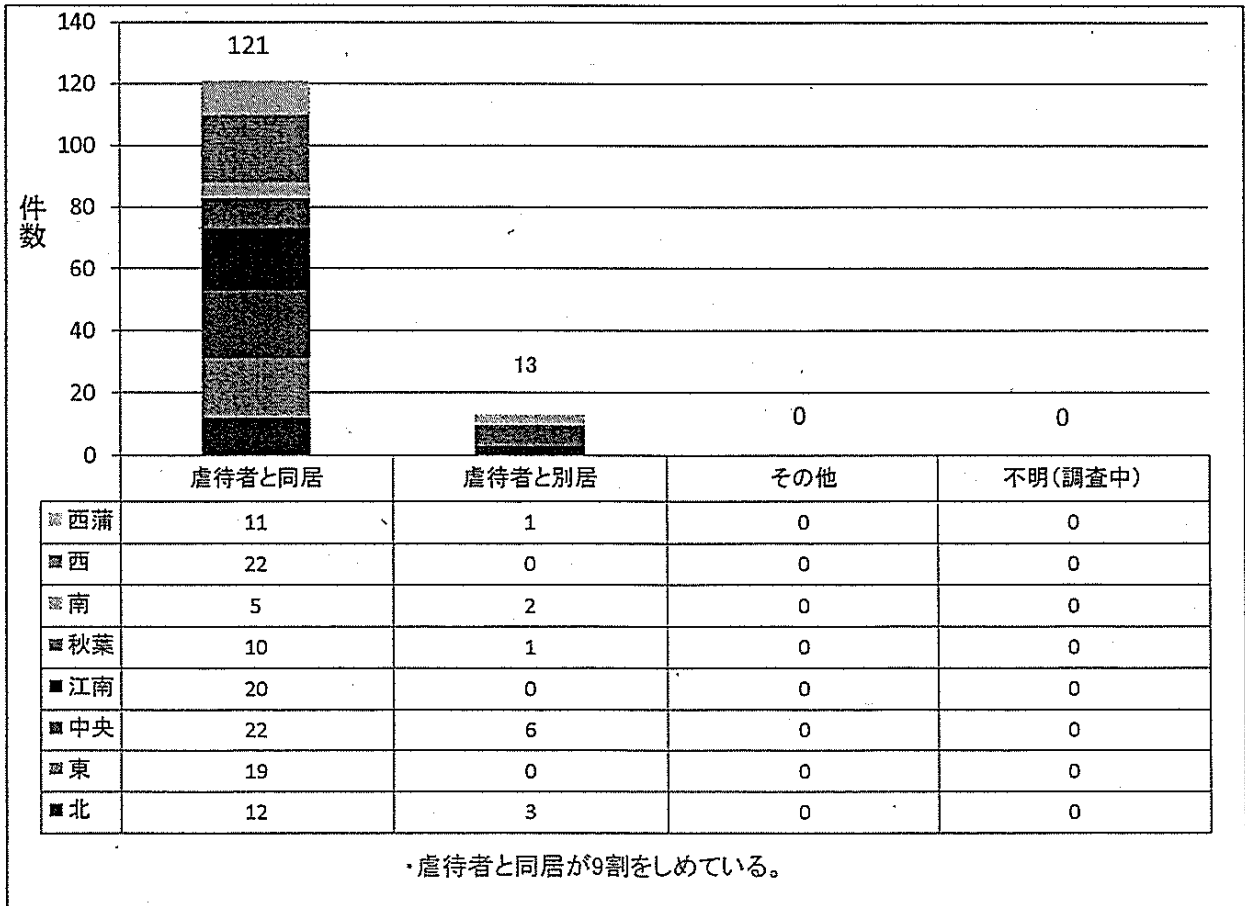
⑩被虐待者の要介護度 n=89



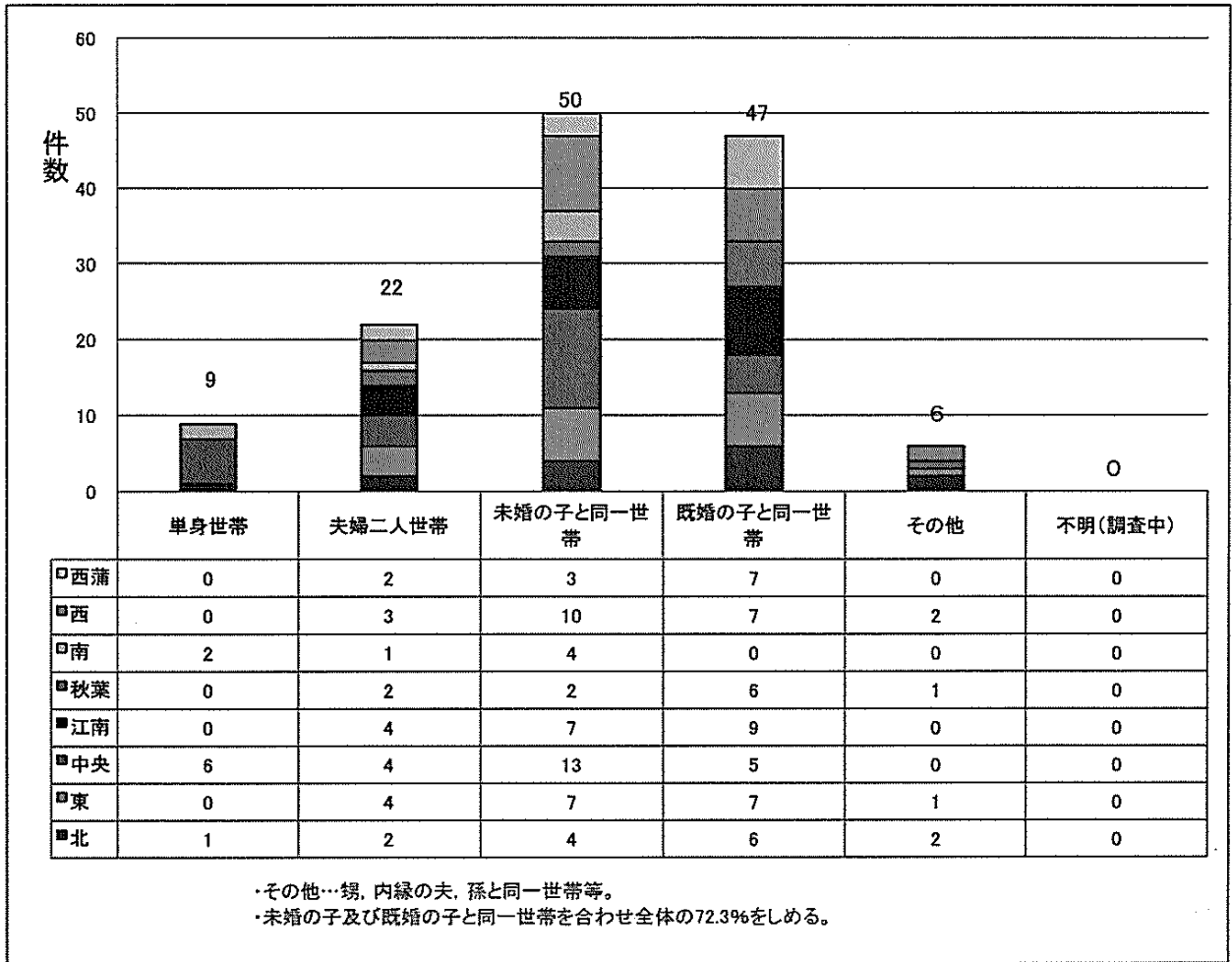
⑪被虐待者の認知症の有無 n=89



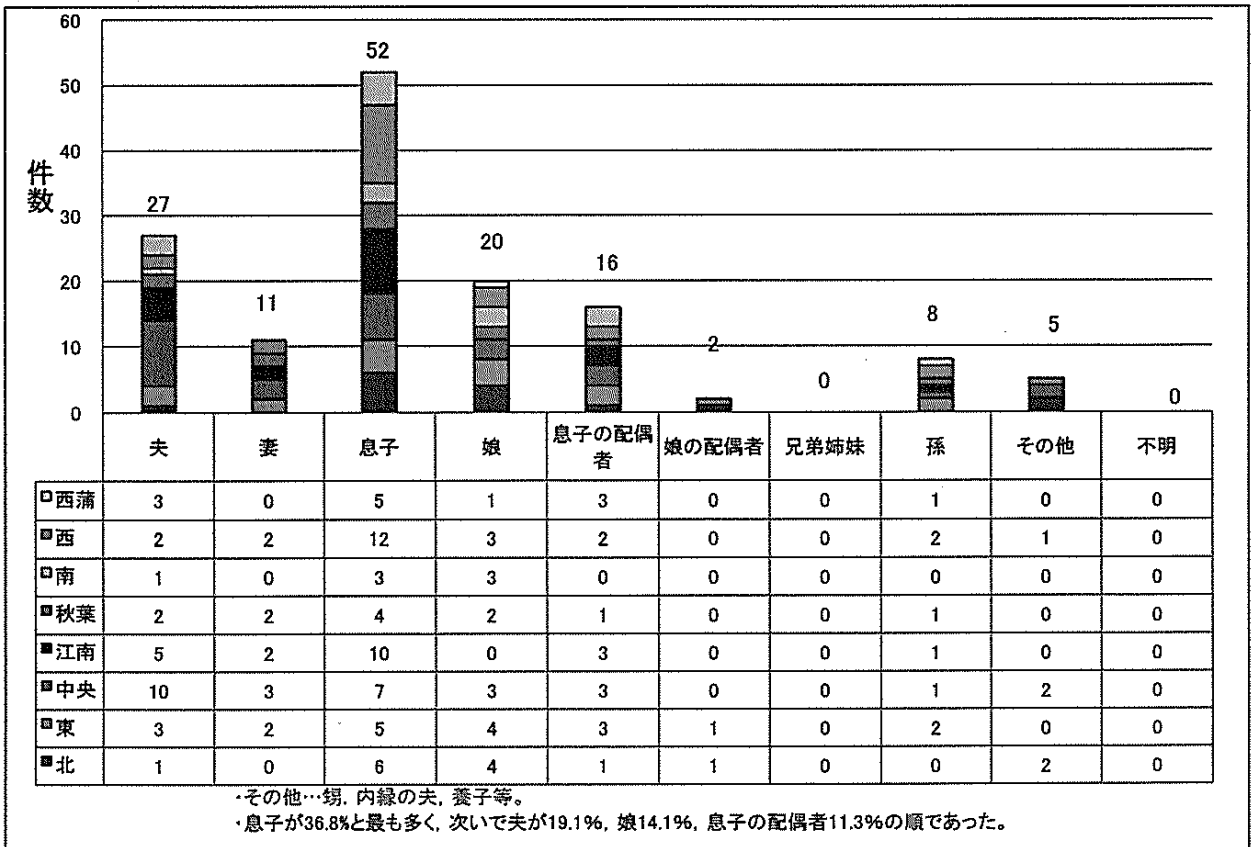
⑫虐待者との居住形態 n=134



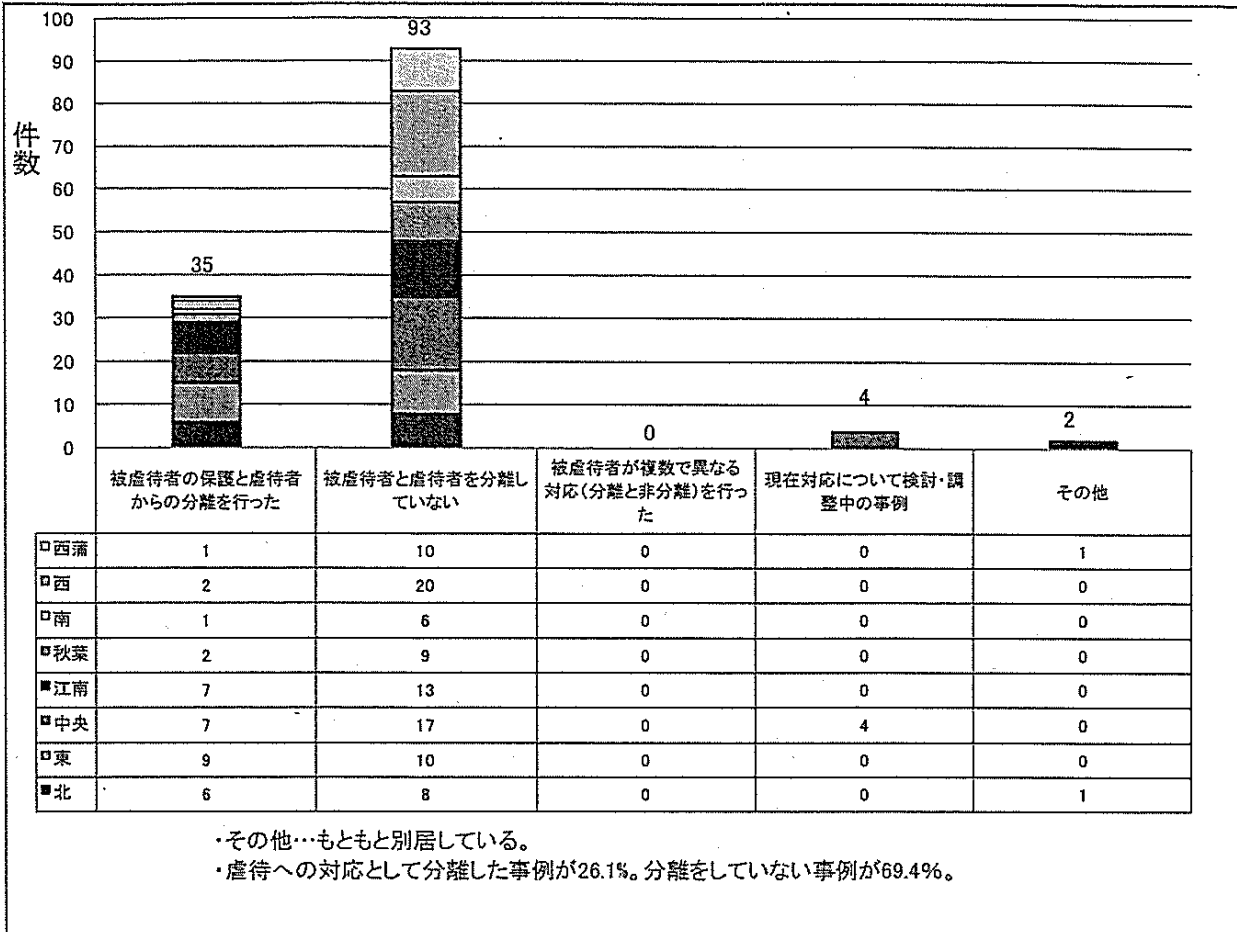
⑬世帯構成 n=134



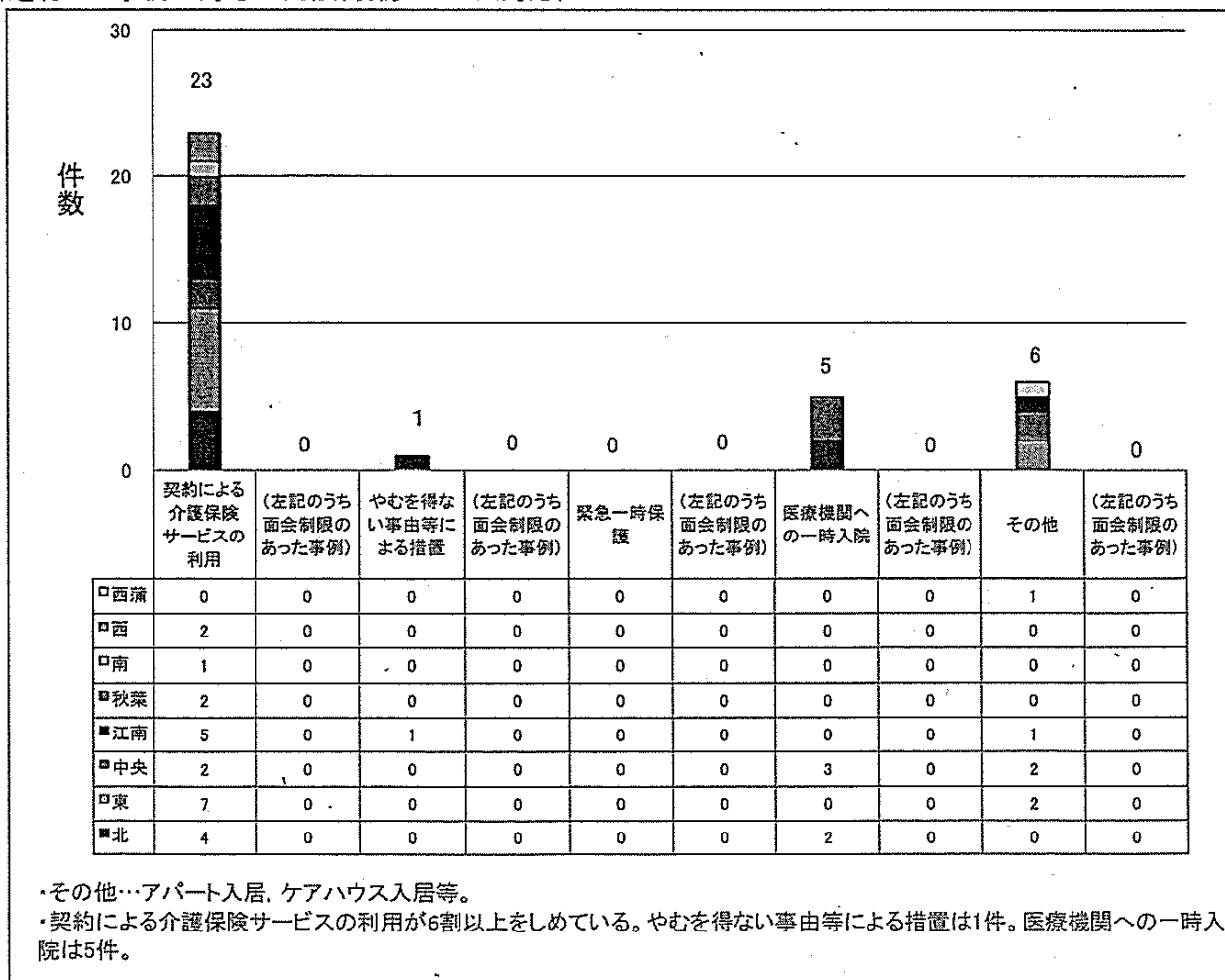
⑭虐待者との続柄(複数回答) n=141



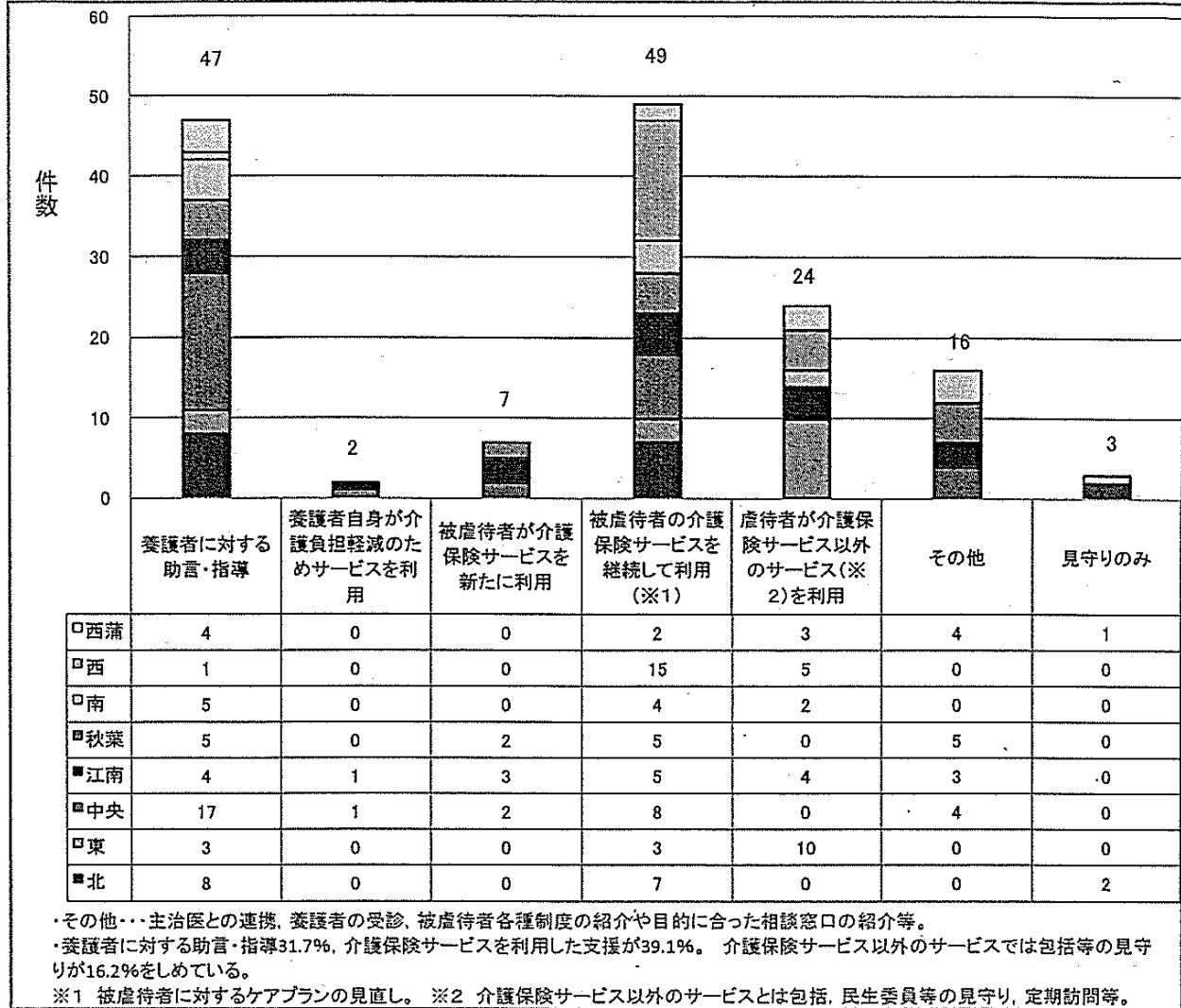
⑮分離の有無 n=134



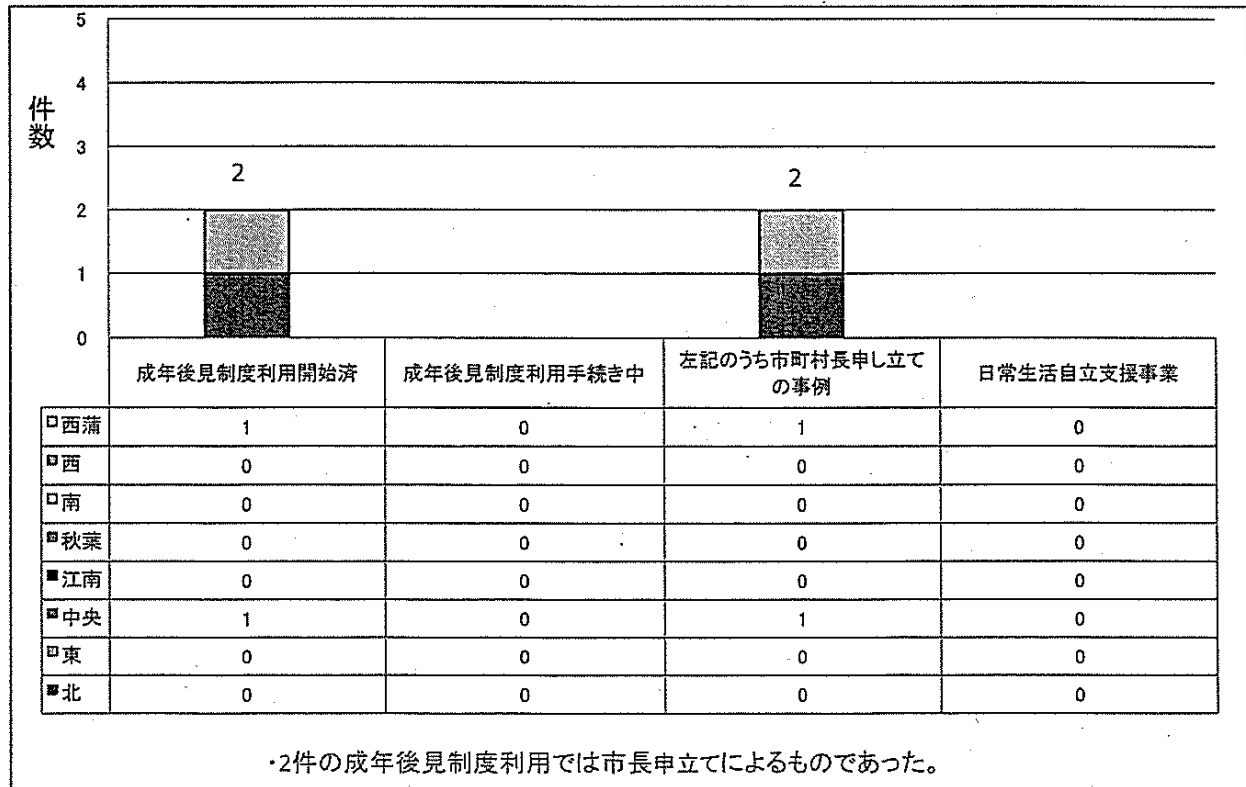
⑯分離を行った事例の対応の内訳(最初にとった対応) n=35



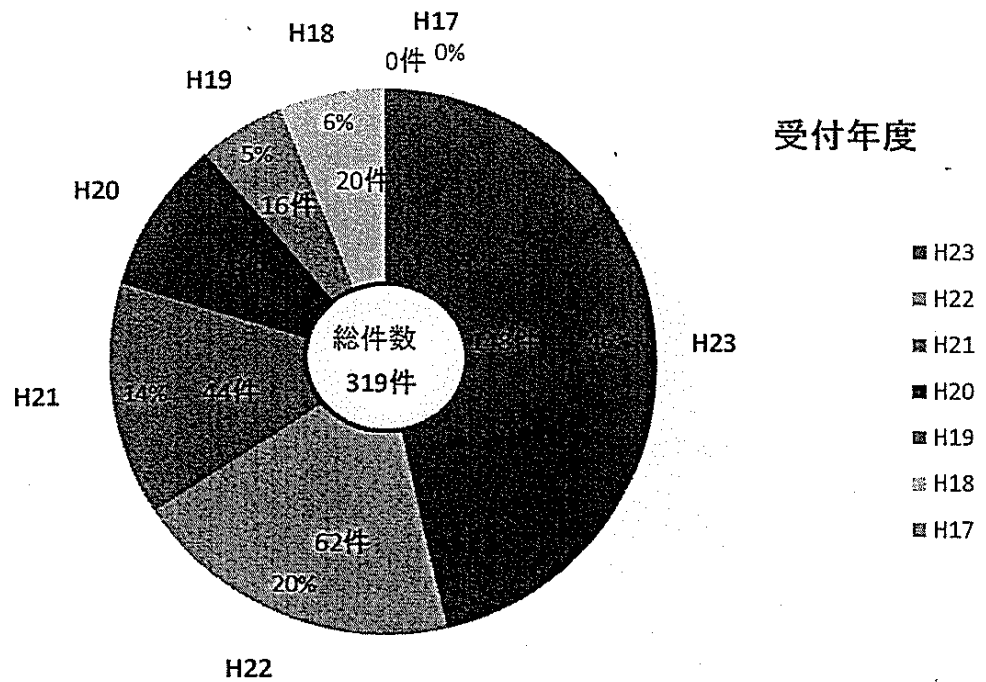
⑰分離していない事例の対応の内訳(見守りのみ以外複数回答) n=148



⑱権利擁護に関する対応 (前年度以前の虐待判断事例のうちH23年度に入って対応を行ったものを含む) n=2



高齢者虐待対応の継続件数 (平成23年度末現在)



※継続者とは受付時65歳未満の人も含む

高齢者虐待対応の区別継続件数 (平成23年度末現在)

